



北大東村総合計画

基本構想・前期基本計画

第2次北大東村しま・ひと・しごと創生人ロビジョン・総合戦略

2023 - 2032

あらたな時代の開拓

断崖絶壁に強く打ち付ける荒波
人が住むことを拒むような厳しい自然環境のこの島に
先人達はサトウキビ 8 株を植え開拓の意志を示しました。

島に人が住み始めて 120 年余
八丈島と沖縄の文化が混じりあいながら
歩んできた歴史の上に現代の私たちの暮らしがあります。

水平線から昇る朝日
威風堂々とたたずむ長幕
深い海をおよぐ魚の影
風に揺れるサトウキビ
子ども達が奏でるたくましい太鼓の音
祭りの日の胸の高鳴り
空いっぱいの星空

この島で暮らし続けていくためには
なにを大切に守っていくべきだろう？
どんなことを変えていかなければならないだろう？

島の自然、歴史、文化、人々が
北大東らしくいきいきと輝く未来へ向けて
これまでの歩みを振り返りつつ
新たな時代の開拓へとチャレンジしていきます。



幕の向こうから昇る朝日

村長あいさつ

北大東村のこれからの10年の指針となる新しい総合計画がまとまりました。

2012年度から2022年度までの前計画の計画期間の中では、農業基盤整備と土層改良の進展による農業生産の安定性の向上、漁港整備に伴う水産業の成長、航空機の大型化や宿泊施設の増設等による観光・交流の拡大、陸上養殖や特産品開発等による新分野の開拓、こども園や福祉施設の充実等による生活環境の向上、国の史跡指定・重要文化的景観選定等による郷土の誇りへの認知の向上など、多様な分野で大きな進展を得ることができました。

生活・産業の基盤整備は進んできましたが、これからは、充実した基盤を活かして、村民が積極的に参加し、島外の協力者と交流・連携しながら、安定して収益を上げられる産業を育て、安心して暮らし続けるために必要なサービスの維持・向上を図るための仕組みづくりに力を入れていくこととなります。

このため、「参加と交流のフロンティア 北大東らしさが創る島の未来」という理念のもとに、生活の目標として「豊かに暮らし続けられる北大東島」、生業の目標として「多様な働き方が実現する元気な北大東島」、自然の目標として「自然と共に生きる環境循環型の北大東島」を掲げ、生活・生業・自然の3分野の取り組みが相乗効果を発揮して、持続可能な北大東島をつくっていくことを目指した総合計画ができあがりました。

総合計画の策定にあたっては、子育て世代のお母さんをはじめ、多様な職域や世代の村民の皆様から積極的にご意見をいただく機会を設けることができ、役場の若手職員による将来を見据えた語り合いを基礎として検討を進めることができました。

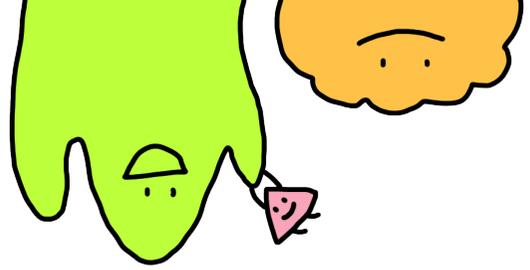
総合計画の実行にあっても、次世代を担う役場職員が夢と責任を持って行政にあたりるとともに、村民の皆様、各事業者・団体の皆様が積極的に参加いただけることと期待しております。

北大東村 村長
宮城 光正



目次

I . 基本構想	
1. だいじなのは「北大東らしさ」	2
2. 総合計画のしくみ	4
3. しまづくりの基本理念	5
4. 基本目標と基本方針	6
5. 将来人口フレーム	8
6. しまづくり構想図	10
II . 前期基本計画【第2次総合戦略】	
1. 前期基本計画施策体系	14
2. リーディングプロジェクト	17
3. 施策の展開	30
4. 計画推進に向けて	81
III . 巻末資料	
1. SDGs 関連図	84
2. 計画検討プロセス	86
3. 検討体制	87



この計画書のたのしみ方

村民のみなさんをはじめ、しまづくりに関わる多くの方に手に取ってもらい理解していただけるように、この計画書はなるべくわかりやすく!たのしく!つかいやすく!をモットーに作成しました。

アンケートやワークショップなどで寄せられた村民のみなさんのアイデアやご意見を計画書のあちらこちらに散りばめました。施策の方向性を確認する時はもちろんですが、何気ないひと時にパラパラとページをめくり、しまの未来に向けたみなさんの想いをながめてみてください。

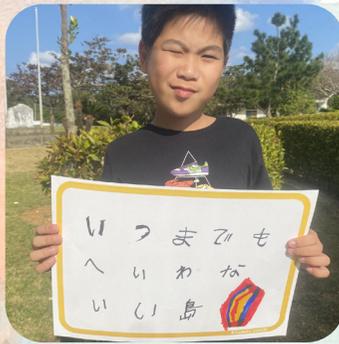
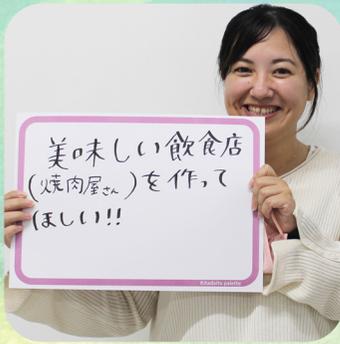
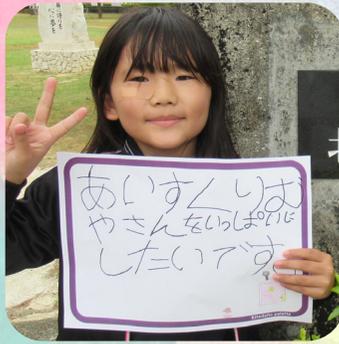
北大東でチャレンジしてみたいことや一緒に取り組む仲間が見つかることを願っています。

しまの未来パネル

「北大東でチャレンジしてみたいこと」「今後こうなっていくといいな」「こんなことやろうよ」といった意志表明やアイデア、希望をパネルに書いてもらいました。

みなさんの想いと共に未来へ向けて歩いていく計画でありたいと考えています。





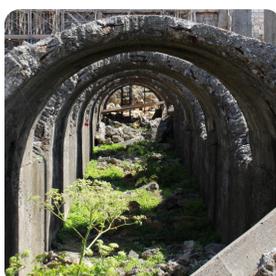
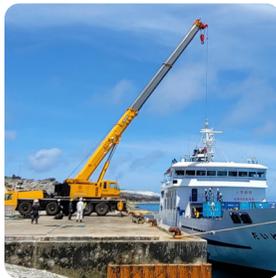
1. 基本構想



1. だいじなのは「北大東らしさ」

今日、私達が目にしている島の生活・生業・自然の風景は、昨日今日で出来たものではなく、開拓から120年余かけて先人達が築いてきたものであり、更にはその大昔に島が生まれた5,500万年以上前から積み重なってきた時の上にこそ成るものです。

そうした歴史の中で形成された自然や人々の営みを「北大東らしさ」と捉え、価値あるものとして評価し活かしていくことは、荒波や強風にもめげないしなやかで持続的なしまづくりに繋がると考えています。



「北大東らしさ」を軸とするこの総合計画において
取入れたい2つのキーワード【文化的景観】と【SDGs】についてご紹介します。

文化的景観とは

地域の自然や歴史・文化、人々の生活や生業を通して形成された、
特徴ある景観を指し、地域を説明する上で重要な要素です。

地域で暮らす人々は、暮らしの風景に、目に映る一瞬の姿だけではなく、
そこで積み重ねられてきた多くの出来事を見ています。
しかし、それは住んでいる人々にとって当たり前のことで、語ることはありません。
このことに気づき、目に映る姿を成り立たせている地域の営みと風土に目を向け、
その“地域らしさ”を見出す試みが“文化的景観”という見方です。
(参考：文化的景観スタディーズ01 地域のみかた-文化的景観学のすすめ-/文化的景観学校検討会)

北大東島の文化的景観は、
隆起珊瑚礁を起源とする特異な地形を持つ南洋の離島で、
明治期に入って開拓が始まり、八丈島と沖縄の文化が混じり合うことで育まれました。
独自の自然の上に積み重なって形成されてきた生活・生業は、
「北大東らしさ」を特徴づけています。

歴史的に継承されてきた北大東島の【生活】【生業】【自然】の特徴を認識しながら、
北大東らしい・北大東ならではの『しまづくり』を目指します。

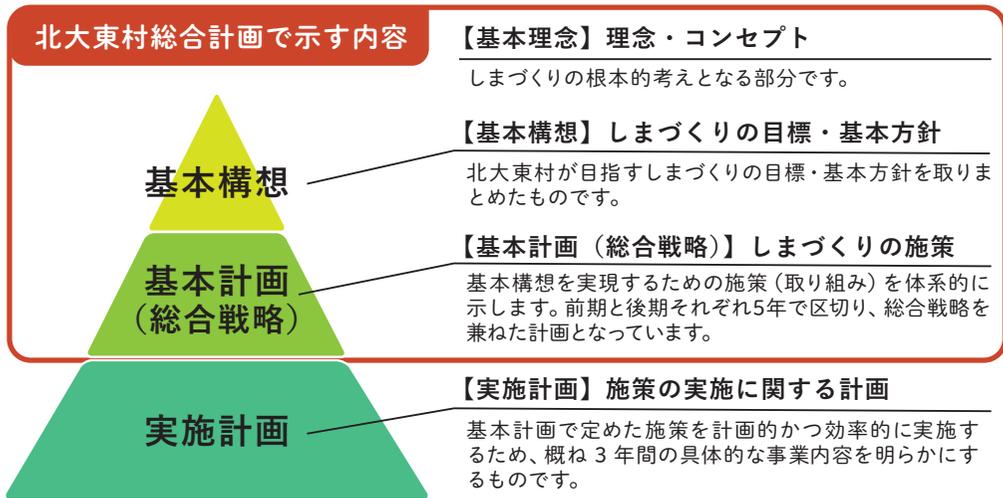
SDGsとは

「誰一人取り残さない」という理念のもと、
「持続可能な世界を実現する」ことを目指した、2030年を達成期限とする17のゴール、
169のターゲット、および、その進展を評価するための指針を持つ包括的な目標です。
また、SDGsでは、「経済、社会、環境の調和」が掲げられており、
3つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発を目指すこととしています。

北大東村総合計画では、SDGsを【社会＝生活】【経済＝生業】【環境＝自然】と捉え、
「北大東らしさ」が続いていく、持続可能なしまづくりを目指します。

2. 総合計画のしくみ

総合計画は「これがなくては今後のしまづくりが進められない」というくらいに重要なものです。北大東村として多くの人や行政各課、組織・団体が二人三脚で前に進むには、“何のためにどう進むのか”気持ちを共有しなければなりません。それが計画の根本的な考え方にあたる基本理念です。そして、足並みを揃えるために“どの足からどんな速度で進むか”といった考えを示した構想や計画によって総合計画が構成されています。



総合計画のひとくくりは10年間です。そのうち、最初の5年間で前期基本計画を執行し、中間地点で取り組みを継続すべきか軌道修正すべきかといった見直しをかけた上で、後の5年間に後期基本計画を執行していきます。



歴史の中で形成されてきた「北大東らしさ」を継承・発展させて未来のしまづくりを目指すため、文化的景観の3要素とSDGsの3側面を重ね合わせた計画づくりを行います。



3. しまづくりの基本理念

(1) 理念

参加と交流のフロンティア 北大東らしさが創る島の未来

▶ 参加と交流

「参加」は、誰もが自分らしく暮らし続けられる島になるように、村民がそれぞれの想いを持ち寄り、積極的にしまづくりに参加するという意味があります。

「交流」は、島の中に閉じることなく、柔軟な姿勢と広い視野を持って、県内・国内・海外の様々な地域との間に、人・資源・情報の結びつきを生み出し、北大東の可能性を広げていくという意味があります。

▶ フロンティア

「フロンティア」は開拓の最前線であり、先人たちが不屈の精神で拓いてきた軌跡を重んじながら、一歩先の新たな時代を挑戦の姿勢で築いていく意志を表しています。

▶ 北大東らしさが創る島の未来

出身地や在住地に関係なく、村民のみならず島に関わる人々にとっても、誇りに思い、愛される北大東であるよう願いを込めています。

(2) コンセプト



Kitadaito palette

北大東村が描く未来は

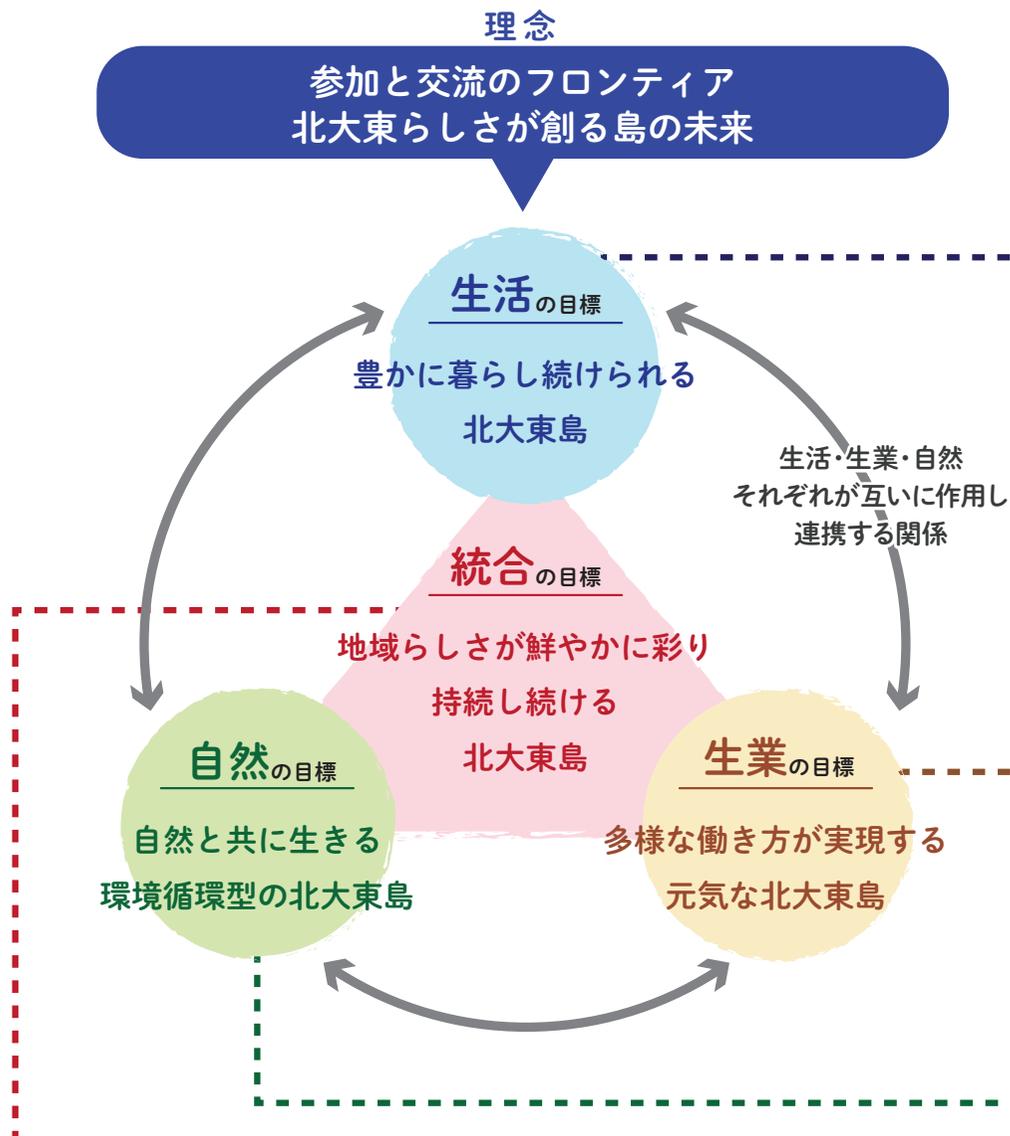
北大東らしい発展により村民が幸せを感じながら
暮らし続けられる島であることです。

村民、事業者、行政がともに

ここにしかない自然・歴史・文化の価値を
“北大東らしさ”として認め、生活・生業へと活かし
常に開かれた交流の中で、島の未来を創造していきます。

Kitadaito palette : 北大東らしさを構成する要素を色にみたと、さまざまな色を島というパレットにのせて混ぜ合わせていくことで新たな色をつくり、みんなで未来を描いていく様子を表しています。

4. 基本目標と基本方針



📎 重要となるポイント

- ◎ 生活・生業・自然が相互に作用し、連動するための体制(役場内、村+活動団体+企業)構築
- ◎ 新しいテクノロジーを活用した暮らし・産業のスマート化
- ◎ しまづくりをバックアップする外部(島外)からの支援(人的協力・学術的知見など)受入れ
- ◎ しまづくりを見える化する空間計画(土地利用方針・構想)

▶ 方針

- ① 北大東らしさを共有し、持続させる官民連携の体制づくり
- ② 適切な土地利用誘導とニューインフラ整備によるスマートな暮らしづくり
- ③ 多様な人材を惹き込み、交流と参加による北大東ネットワークづくり

理念のもと「生活」「生業」「自然」の3分野とそれらを動かすエンジンとなる「統合」の計4つの基本目標にそれぞれの方針をたてます。

重要となるポイント

- ◎ 参加と交流により育まれてきた行事・コミュニティの維持と継承
- ◎ 移住・定住を実現するための宅地・住宅整備への支援
- ◎ 離島格差が解消され、医療・福祉・教育に関するサービスの充実
- ◎ 電気・ガス・水道に加えインターネットなど生活インフラの充実と負担軽減
- ◎ 自然災害や有事に備えた防災施設・機能、緊急輸送体制の確保

▶ 方針

- ① 温故知新、つながりのあるコミュニティづくり
- ② “しまちゃび”に屈せず豊かに暮らせて、自律を促す基盤づくり
- ③ 安心して住める・帰ってこられる環境づくり

重要となるポイント

- ◎ 農業は、基盤整備が概ね完了するため、今後は生産性・品質の向上と高付加価値作物の生産量拡大
- ◎ 水産業は、水産加工施設、陸上養殖施設、漁港など基盤施設が整備されたため、今後は水産物の生産量(漁獲量)及び販路拡大
- ◎ 観光業は、零細産業からの脱却を図り、各産業を横断的に連携させる役割を確立
- ◎ 島の雇用を担う建設業の維持と経営多角化
- ◎ 副業及びマルチワーカーを含め、島の暮らしを支える多様な働き方の支援

▶ 方針

- ① 高付加価値の農業と水産業が輝く生産環境づくり
- ② 参加と交流の中で成長する北大東の観光づくり
- ③ 多様な働き方で多様な人材が行き交うしごとづくり

重要となるポイント

- ◎ 北大東島の豊かな自然環境・海洋資源を保護しながら、経済活動(漁業、観光振興、海水・石材商品など)への展開
- ◎ 燐鉱石貯蔵庫跡などの史跡指定・重要文化的景観選定を契機に、文化財を保全及び活用した地域づくり
- ◎ 生活や産業からの排水や廃棄物の適切な処理と循環型社会
- ◎ 産業振興と自然環境のバランスを保つ研究フィールドへの提供

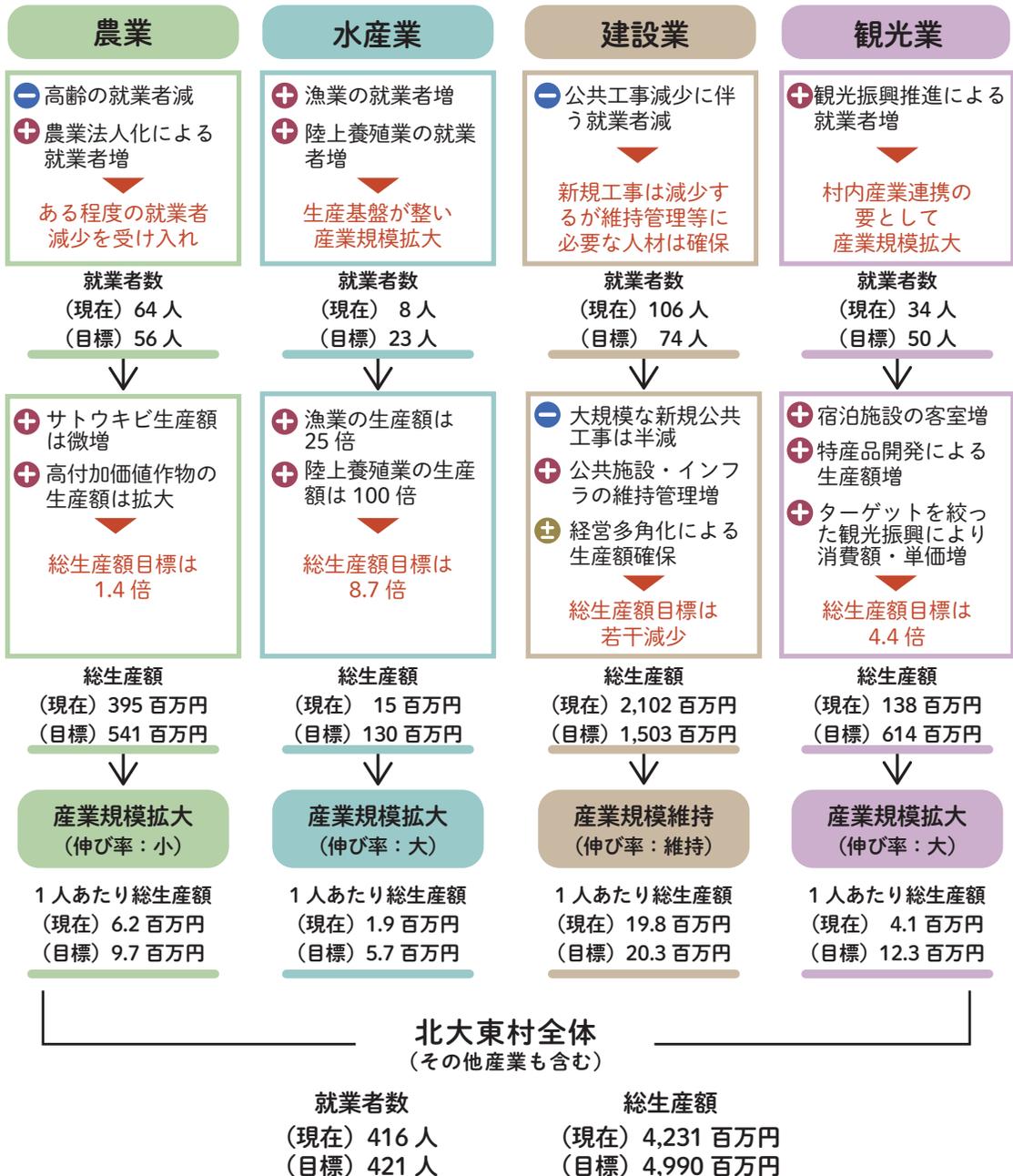
▶ 方針

- ① ここにしかない自然を活かし、守りつづけるしまづくり
- ② 自然の上に築かれた先人の思いを紡ぎ、未来へ結ぶ景観づくり
- ③ 北大東に適した次世代に向けた循環型のエコアイランドづくり

5. 将来人口フレーム

(1) 産業フレーム

総合計画では、目標とする人口と世帯数を設定しますが、北大東村では各産業の展開が人口増減に大きく影響するため、産業動向をベースに将来目標を描いていきます。ここでは、農業、水産業、建設業、観光業を村の重要産業と位置づけ、それぞれの“産業別ストーリー”を想定して就業者数*や総生産額*の目標を設定します。



* 就業者数：(現在)は「令和2年国勢調査」より、(目標)は想定されるストーリーによりR12の人数を独自設定した。
* 総生産額：(現在)は「沖縄県市町村民所得」より、(目標)は想定されるストーリーによりR12の額を独自設定した。

(2) 人口フレーム

左図の産業フレームにある就業者数の伸びを踏まえて、将来の人口および世帯数を導き出しました。この先10年間をかけて村が目指すべき将来人口フレームは次の通りです。

	2023年	2032年
人口	590人	660人
世帯	320世帯	330世帯

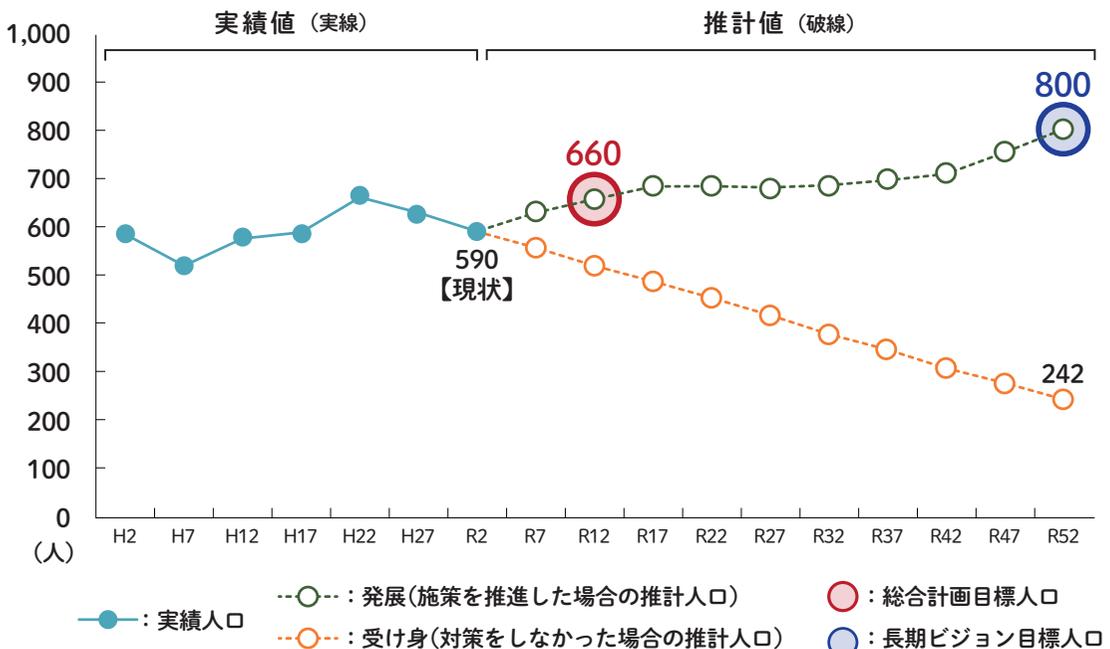
※国勢調査人口・世帯数

(3) 長期ビジョン

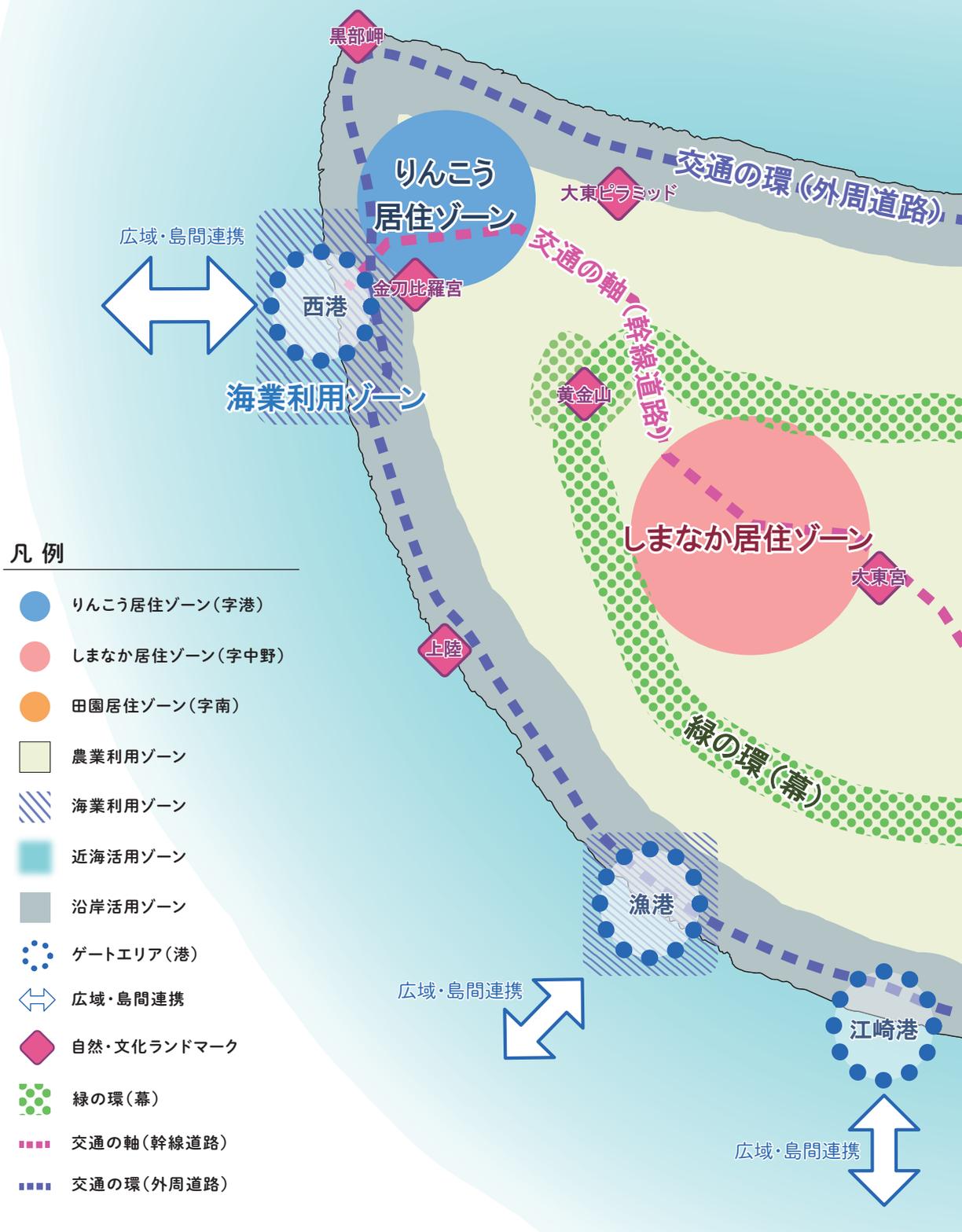
本計画は「第2次北大東村しま・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」も兼ねるため、人口の将来展望として総合計画の計画期間以降40年間の長期ビジョンを示します。

長期ビジョンの設定にあたっては、① 現状の高い出生率を維持すること、② 若い世代の移住・定住を実現すること、③ 県内トップクラスの長寿村を実現することを条件として人口推計を行っています。

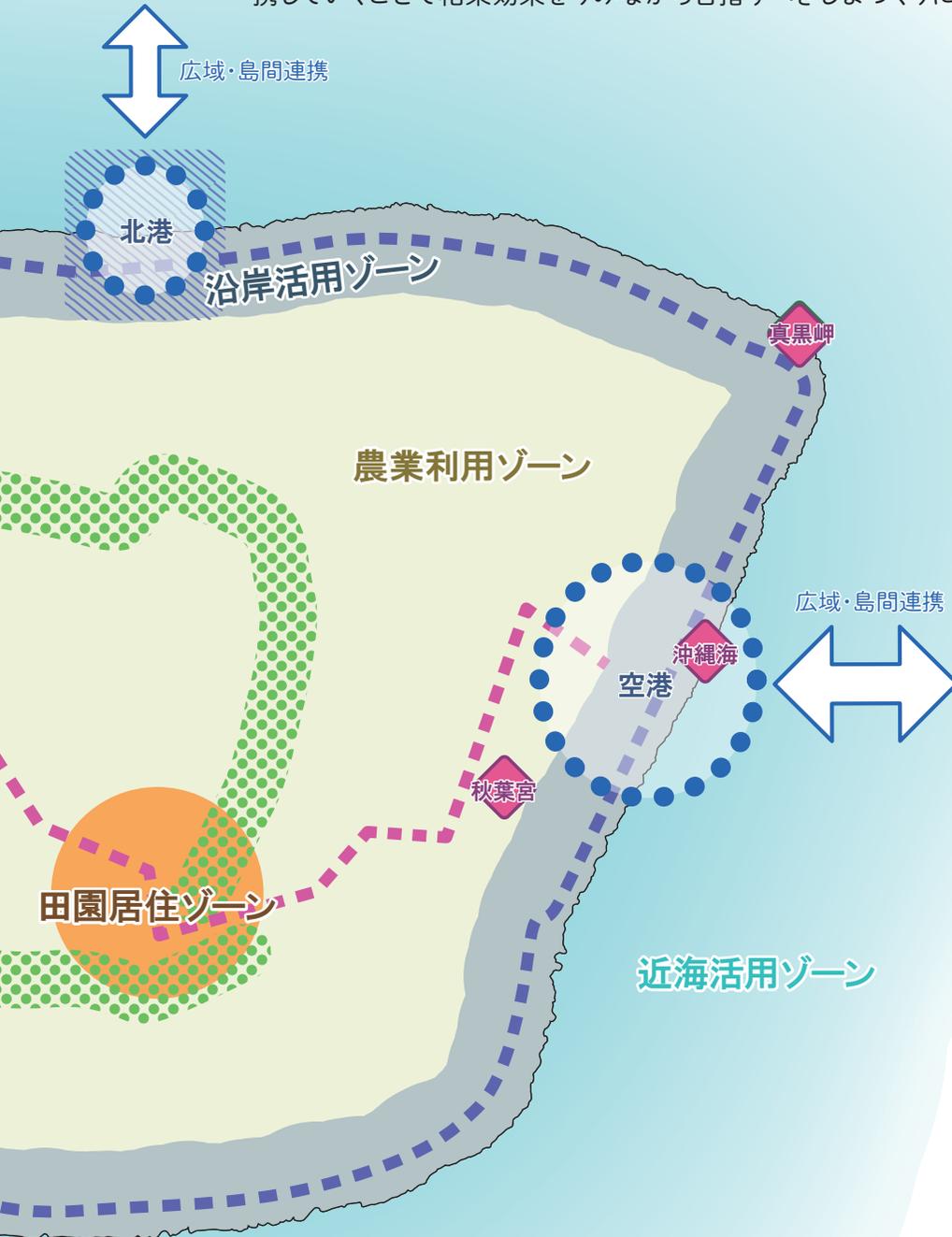
	2032年	2072年
人口	660人	800人



6. しまづくり構想図



基本理念のもと立てた基本目標および基本方針の実現に向けて、島のどのエリアをどのような考えで発展させていくのかを空間的に示した“しまづくり構想図”を描きました。点・軸・面で構成する要素がそれぞれの役割を果たし、互いに連携していくことで相乗効果をうみながら目指すべきしまづくりに繋げていきます。



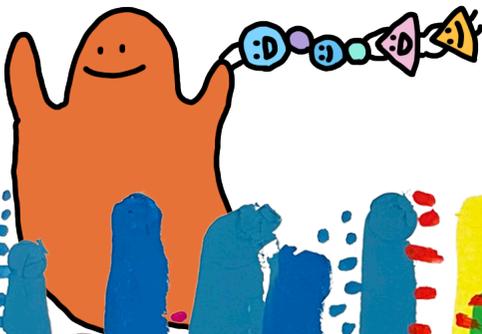
※ゾーンや軸など各凡例の考え方は次のページをご覧ください。

しまづくり構想図の考え方

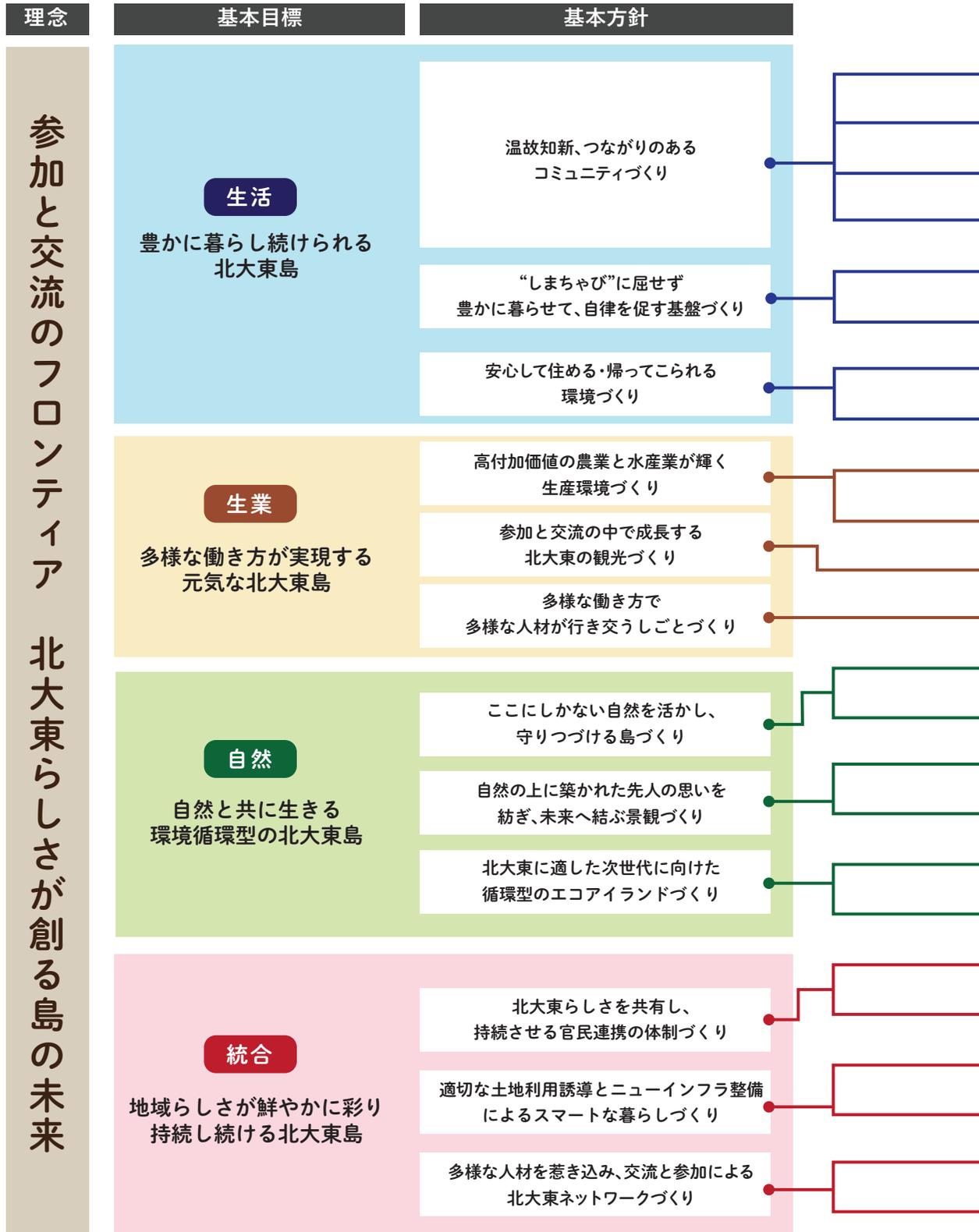
凡例	名称	考え方
	りんこう居住ゾーン(字港)	りんこう居住ゾーンは、海に面しており、燐鉱石採掘産業で栄えた時代に「燐鉱山」と呼ばれ、社宅街や鉱夫村が立地していた地域です。海や往時の雰囲気の色濃く残す文化財等を活用したゾーン核整備や交流機能の充実、居住誘導機能の充実、持続的な基幹産業の発展を図ります。
	しまなか居住ゾーン(字中野)	しまなか居住ゾーンは、島の中心部に位置し、行政・医療・福祉・教育・消防などの生活支援機能が集積している地域です。さらなる生活支援機能の集約、居住誘導機能の充実、農業や製糖業の振興、新たな産業の創出を図ります。
	田園居住ゾーン(字南)	田園居住ゾーンは、サトウキビ畑の中に点々と農家住宅が建っている散居集落となっています。公民館を中心としたゾーン核整備や生活支援機能の充実、居住誘導機能の充実、田園活用による交流機能の充実を図ります。
	農業利用ゾーン	農業利用ゾーンでは、これまで整備を進めてきた基盤を活用し、新技術導入によるスマート化や環境保全型農業など先進的な農業振興を図ります。
	海業利用ゾーン	漁港や西港、北港周辺の海業利用ゾーンでは、沿岸漁業や陸上養殖の産業活性化、マリンレジャー開発、深層海水の利活用など海の恵みを活かした海業の拠点形成を図ります。
	近海活用ゾーン	近海活用ゾーンは、大東ブルーの深く美しい海が広がり、大型魚類も回遊する豊かな漁場を有しています。水産資源や海洋資源を確保しつづけられるよう適切な管理・保全・活用を図ります。
	沿岸活用ゾーン	沿岸活用ゾーンでは、島の輪郭を形成する海岸岩礁を保全しつつ、眺望景観や海洋性レクリエーションの素質を活用します。また、津波・高潮に備えた防災機能の強化を図ります。
	ゲートエリア(港)	空港、3つの港、漁港は島の内外をつなぐゲート空間であり、重要なインフラです。交通・物流・防災面での機能強化を図り、安全安心な島の暮らしを確保します。また、広域・島間連携の要として位置づけ、機能の充実を図り拠点性を高めます。
	自然・文化ランドマーク	島内に点在するランドマークは、北大東の自然と文化を象徴するものです。その場所につつまれる歴史的背景なども含めて継承し、文化活動や観光振興に積極的な活用を図っていきます。
	緑の環(幕)	幕は、島に生息する希少な動植物達の母なる森であるとともに、島の景観を印象づけるみどり空間です。自然環境を保全し、環境学習や研究フィールドとして積極的に活用します。
	交通の軸(幹線道路)	幹線道路は交通の軸として有効活用し、居住ゾーン間をつなぐことで拠点間連携、交流促進を図り、島全体での暮らしやすさを向上させます。
	交通の環(外周道路)	外周道路は島をぐるりと一周し、沿岸部に位置する空港・港湾施設を結びます。円滑な物流や観光周遊での効果を発揮します。

II . 前期基本計画

【第2次総合戦略】

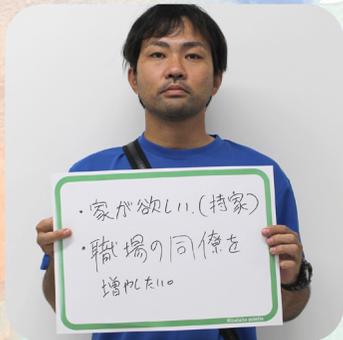
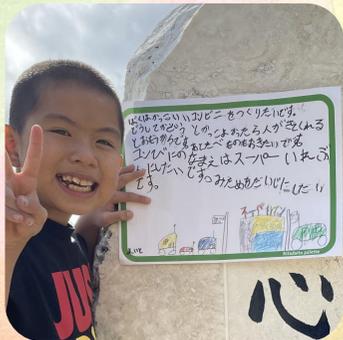
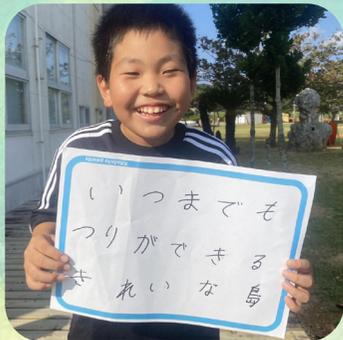


1. 前期基本計画施策体系



理念、目標、方針からなる基本構想と前期基本計画における具体的な取り組みを示す施策の関係性を以下に示します。

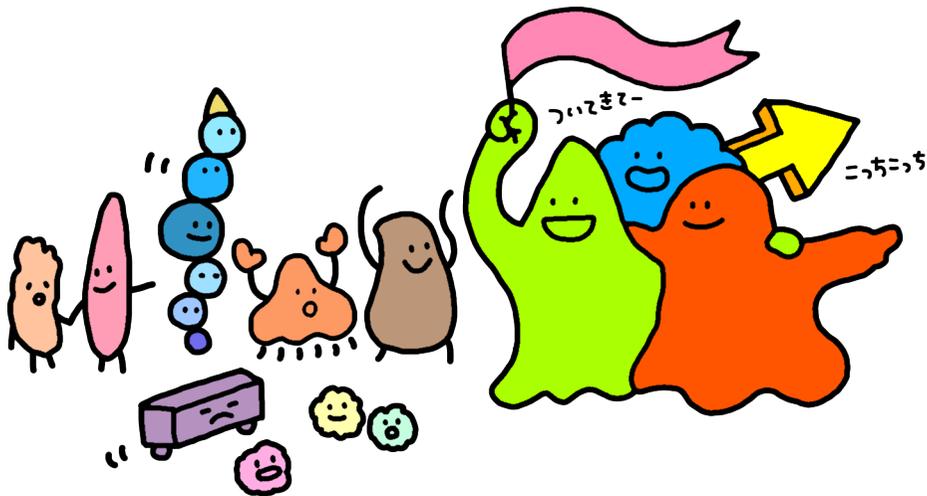




2. リーディングプロジェクト

ここでは、前期基本計画期間において先導的な役割を果たす5つのリーディングプロジェクトを紹介します。

リーディングプロジェクトは、アンケートやワークショップなどから得られた村民の意向、統計データや庁内ヒアリングなどから見えてきた“村が優先して取り組むべき課題”に対して、分野を横断して複数の施策を組み合わせることにより、課題解決を目指すものです。



5つのリーディングプロジェクト

- 1 集会所を核としたコミュニティ・生活拠点づくり
- 2 人と技術が交流する北大東版パラレルキャリアの推進
- 3 文化的景観を活かしたプライドの醸成と観光交流
- 4 地域資源を無駄なく活かす好循環な地域づくり
- 5 海を超えるICTプロジェクト

1 集会所を核としたコミュニティ・生活拠点づくり



島で建物をつくるには、資材を島外から運び込むため建設コストが高く、個人が新たに住宅を建てることは難しい状況にあります。住環境づくりは、定住や移住意向に直接的に関係するので、将来の人口確保に向けた重要な課題として取り組む必要があります。

プロジェクトの方向性

- 宅地造成や住宅整備による住環境づくりを行い、定住や移住・帰島を促進します。
- 地域の拠点施設となる集会所を中心に住環境づくりを進め、字ごとのコミュニティの形成・強化を図ることで、いきいきとした地域づくりを支えます。
- 居住機能を集約することで、インフラ整備や維持管理による財政の適正化や優先投資を図り、さらに生活利便サービスの充実により暮らしやすさの向上につなげます。
- 集会所を地域コミュニティの活動拠点として有効活用しながら、子どもやお年寄りの見守り体制の構築・強化を図ります。
- 集会所は、多様な方が気軽に利活用できる施設として、リニューアルおよび機能強化（防災機能含む）を積極的に推進します。
- 各字の集会所を核とした居住ゾーンを交通の軸（公共交通）で結ぶことにより、車を運転しなくても島内を移動でき、利便性の高い暮らしを実現することを目指します。
- 新たな住宅整備は居住ゾーン内で行うことを推奨し、長期的な展望として居住機能の集約を図ります。

具体的な事業内容

集会所のリニューアル（建替え）

担当：総務課、建設課

- 集会所のリニューアルにあたっては、近年の社会動向や村民ニーズを踏まえるとともに、行政サービスや地域の見守り体制、防災対策など、地域コミュニティ形成・強化および快適で安全・安心な暮らしの観点から機能の充実を図ります。
- 集会所が子ども達の遊び場や周辺住民の集い・憩いの場として機能するよう、敷地内での公園整備、ストリートファニチャー・遊具の設置などを検討します。
- 各字における集会所リニューアル（公園整備を含む）に向けた基本計画を地域住民と協働により策定し、順次、設計および整備に着手します。

住環境整備に関する調査・事業計画立案

担当：建設課

- 住環境整備（宅地造成、インフラ整備）の基礎調査として、村の住宅事情および今後必要となる宅地や住宅の必要量を把握するとともに、法規制や権利関係を整理します。
- 基礎調査を踏まえ、各字の集落整備の方針・手法を検討し、事業計画を立案します。
- 長期的な視点で、散居集落の居住ゾーン内への建替え支援（土地の交換、建替補助）を検討します。

～各字の環境整備イメージ～

【字 港】隣鉱山関連施設群の遺構を活かした集落づくり・居住空間の拡大

【字中野】居住空間の拡大、公共サービス（行政・学校・医療福祉・金融など）機能集約

【字 南】居住空間の整備・集約による新しい集落形成

公共交通の導入検討

担当：総務課

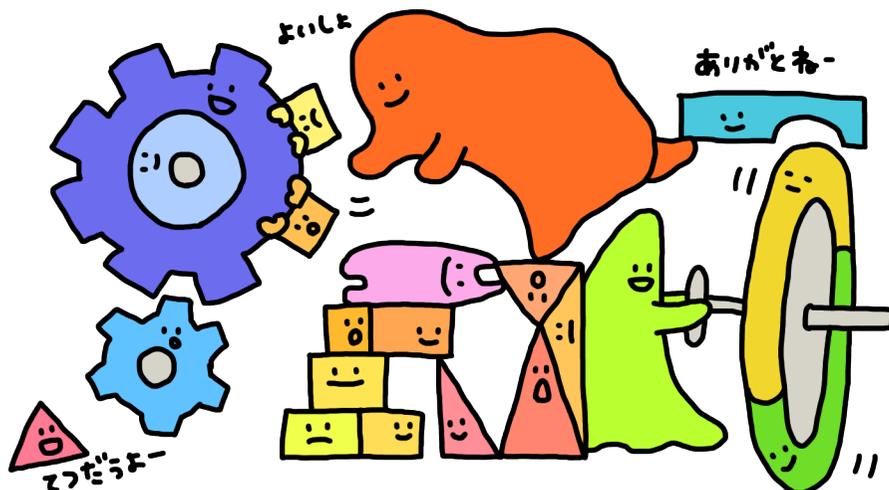
- 居住ゾーン間と主要施設をネットワークする公共交通（コミュニティバスなど）の導入を推進します。
- 新たに導入する公共交通は、エコロジーかつ新技術を活用した次世代型のモビリティを検討します。
- 公共交通の導入に向けては、実証実験を踏まえるとともに、関係機関との連携のもと、全国レベルでの先進的事業モデルを目指して取り組みます。

事業スケジュール

年度	R5	R6	R7	R8	R9
集会所リニューアル （公園設置含む）	基礎調査			基本計画・基本設計	
住環境整備に関する 調査・事業計画立案		基礎調査		事業計画立案	
地域間交通の導入検討				調査・導入計画立案 （実証実験の検討）	

※色塗りは期間内に着手する目安です

2 人と技術が交流する北大東版パラレルキャリア*の推進



開拓以降、島では1人ひとりが複数の役割を担いながら助け合ってきました。本業に就きながら週末は農業や漁業をするといった村民も少なくありません。この状況を「北大東らしさ」と捉え、限られた人数で人手不足を補いあいつつ、個々の能力発揮や挑戦の場づくり、産業全体の活力につなげる取り組みを進めます。

プロジェクトの方向性

- 特定の仕事に従事しながらも、農業、漁業、商業、観光業など、他方への兼業（副業）を行う働き方を推進します。
- “特定の人材に負担が集中する”“やむなく無償で行っている”といった状況の解決に向けて、事業所間の連携・提携や、人材確保の一本化などによりスムーズな人材流動を図ります。
- 多様な産業を束ねた総合産業の設立を支援し、同組織の中で農業、漁業、建設業など産業の垣根を越える就業のあり方を創造します。
- 地方公務員（役場職員）の副業緩和を検討し、職員が積極的に地域活動（有償活動）に参加できる仕組みづくりを検討します。
- 多様な働き方の推進は、島内居住・定住を促すことも期待されるため、「島から外へ」「外から島へ」が実現するICT環境の充実を図ることも重要です。
- 村民が1つのキャリア（生き方・職業）にとらわれることなく、島での生きがいを持ち、暮らしを豊かにするため、北大東版パラレルキャリアの普及を推進します。

*パラレルキャリア：経営学者ピーター・ドラッカーが提唱した働き方であり、非営利目的のボランティアや趣味の活動などを含め、複数の職責や立場を持ち仕事をすることで第2、第3のキャリアを築くこと。

具体的な事業内容

北大東版パラレルキャリアの推進

主担当課：総務課、経済課、福祉衛生課
関係主体：島内全事業者

- 多様な働き方を支援するパラレルキャリア推進制度の構築を推進します。（第3セクターとして村の支出、運営の可能性も含めて検討します。）
- 流動的な人材確保・配置が可能となるよう、村内事業者と協議会を発足し、副業制限緩和や就業支援方策の検討を進めます。
- パラレルキャリア推進制度には、就業体験、起業支援、資格取得およびスキルアップ支援を盛り込み、キャリア（就業）をとおした島での生きがいづくりを促進します。

各産業を束ねる総合産業の設立支援

主担当課：経済課
関係主体：建設事業者、製糖事業者

- 北大東村の産業活動を推進するため、他分野の産業を束ねる組織の設立を支援します。
例）製糖業と観光業（宿舎の提供による宿泊業）、建設業と農業・水産業（繁忙期の人材確保）
- 総合産業（企業）内での人材の流動、多様な活動を促します。

役場職員の副業制限緩和

主担当：総務課

- 村営（行政）機能の維持を絶対条件としながら、役場職員が地域活動（補修活動含む）に積極的に参加できるよう地方公務員の副業制限緩和を推進します。
- 役場職員が農業、漁業、観光業など多様な産業・事業所へ参画し、行政業務で培った知識や経験を地域へ還元できる仕組みを構築します。
- 全国の先進事例を参考にしながら、北大東村役場職員版の副業制限緩和制度の設計を検討します。

遠隔就業の支援

主担当：総務課

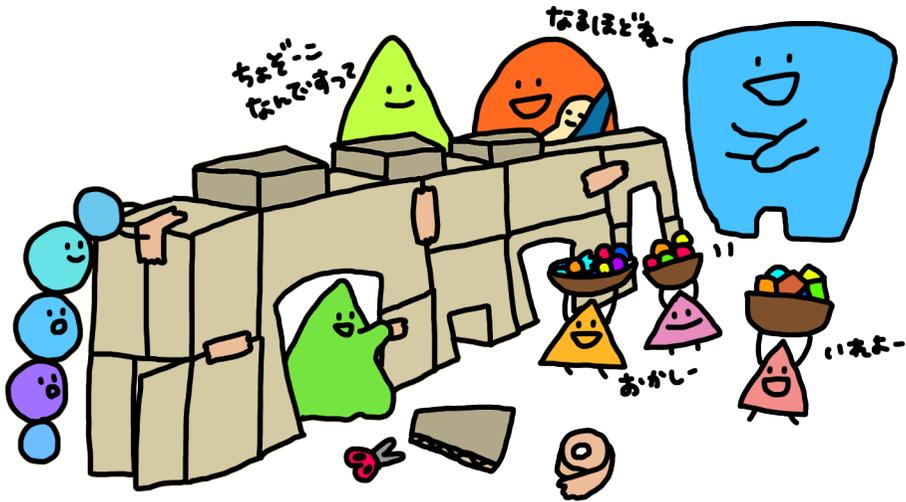
- 村民が北大東村で生活しながら、島外での就業が可能となるよう、また、北大東島内の就業を島外からも可能とするよう情報通信インフラの整備・強化を推進します。
- 観光事業者と連携しながら、来訪者が北大東島での余暇を楽しみながら就業できるよう、ワーケーションの誘致および施設整備を推進します。

事業スケジュール

年度	R5	R6	R7	R8	R9
北大東版 パラレルキャリア推進	パラレルキャリア制度設計 事業所協議会設立				
総合産業の設立支援	設立支援制度検討				
地方公務員（役場職員） 副業緩和の制度検討		ニーズ・事例調査 制度（条例）検討			
遠隔就業支援	島内情報インフラの整備・強化			ワーケーション施設整備	

※色塗りは期間内に着手する目安です

3 文化的景観を活かしたプライドの醸成と観光交流



燐鉱石貯蔵庫跡を代表として、島には燐鉱石採掘産業時代のなごりを残す場所や施設が現存しています。私たちが日常的な景観として受け入れているそれらを、“ここにしかない魅力”として地域づくりや観光に積極的に活用し新たな価値をつけていく取り組みを進めます。

プロジェクトの方向性

- 燐鉱石採掘産業に関連する遺跡や集落（旧社宅街）は、産業遺構としての価値を活かし、開拓の歴史を示す文化的資源として、将来にわたり保全し継承していきます。
- 字港に位置する史跡・重要文化的景観の保存および活用整備を積極的に推進し、地域学習や観光振興へ展開します。
- 集落内に残る遺構や跡地は、施設の再生や空間整備をとおして、交流や産業振興、定住促進につながる有効活用が望まれます。
- りんこう交流館を中心とするエリアは、往時から続く賑わいと産業の拠点として、重点的な活用整備を推進します。組積遺構群については、史跡や重要文化的景観を解説するガイダンス施設や、産業振興を推進する施設として再生整備を進めます。
- 史跡や重要文化的景観を活用したイベントを継続的に実施・開催し、村民一人ひとりが北大東らしさを認識し、島へのプライドの醸成を図ります。
- 字港の文化資源を活かしながら、官民連携による北大東らしい景観づくりを島内に波及させ、地域住民と連携しながら北大東らしさ（文化的景観）を育て、魅力的な島づくりと観光振興につなげていきます。

具体的な事業内容

史跡・重要文化的景観の整備活用事業

担当課：教育委員会
関係主体：字港自治会

- 国指定史跡、国選定重要文化的景観の整備活用事業を推進します。
- 本質的価値を具現化させるとともに、地域住民の北大東プライド醸成の一端を担います。
- 遺構群や敷地跡は可能な限り、地域資源として有効活用を目指します。特にりんこう交流館一帯のエリアは重要文化的景観の拠点として重点的かつ優先的に活用整備に着手します。

産業支援および定住促進に向けた活用整備

担当課：教育委員会、経済課
関係主体：字港自治会、建設事業者、観光事業者

- 重要文化的景観の整備活用事業と連携しながら、遺構や敷地を活用し、島の産業振興や定住促進につながる施設整備を推進します。
- 特に字港集落内での公共施設の設置については、遺構群の活用を優先しつつ、景観形成のモデルとしての整備を推進します。

北大東プライドの醸成

担当課：教育委員会 連携課：福祉衛生課、経済課
関係主体：社協、学校

- 文化的景観に関する学校教育、社会教育の充実による郷土への愛着を醸成します。
- 文化財ウォークや地域回想法等による村民の健康増進・介護予防へ活用します。
- 住民参加型の景観づくりや文化財の保全を推進します。

観光メニュー開発

担当課：経済課 連携課：教育委員会
関係主体：観光事業者

- 燐鉱山由来の文化財を活かしたツーリズムおよび商品・サービス開発を推進します。
- 南大東島の歴史資源と関連し、全島規模および南大東島との連携による文化的景観の保全・活用を推進します。

事業スケジュール

年度	R5	R6	R7	R8	R9
史跡・重要文化的景観 整備活用事業	史跡および重要文化的景観の活用整備事業実施 ※文化庁補助事業				
産業支援および定住促 進に向けた活用整備			重要文化的景観整備活用事業と連携し 適宜、実施（設計・施設整備）		
北大東プライドの醸成	適宜、イベント開催				
観光メニュー開発	史跡・重要文化的景観を活用したメニュー開発・実施				

※色塗りは期間内に着手する目安です

具体的な事業内容

クリーンセンターの更新

担当課：福祉衛生課

- 老朽化するクリーンセンターの建替え・更新に向けた老朽度調査、環境調査など必要に応じた調査を実施します。また、環境負荷の少ないクリーンセンターの施設計画を策定し、順次、設計、施設整備に着手します。
- 遠隔離島として、資源ごみの適正処理機能と島内リサイクルの可能性を検討します。
- 集落排水（し尿含む）や産業排水についても同施設での処理が可能となるよう、複合的機能を持つクリーンセンターの整備を目指します。

新エネルギー可能性調査・実証実験

担当課：福祉衛生課 連携課：経済課
関係主体：農協、水産組合、建設事業者

- 太陽光、風力、波力など、北大東島に適した再生可能エネルギーの検討を進めます。特に島の生活や経済性、生産性を考慮し、適切なエネルギー、効率的な電源確保を模索します。
- 水素やバイオマスといった次世代型のエネルギーについては、国や研究機関と連携（実証実験など）を図り、公共交通モビリティ、農業、水産業、建設業への展開についても調査を進めます。

好循環な産業活動の推進

担当課：経済課、建設課
関係主体：農協、水産組合、建設事業者

- 農業は、化学肥料の適正化を図りつつ、生産性および品質の向上に向けた調査研究を推進します。
- 水産業は、船舶の低炭素化を目指しつつ、漁具の適正利用の徹底を推進します。
- 建設業は、建設重機の低炭素化を促進するとともに、工事現場で切り出されたドロマイト（石材）を建材として活用（村内の景観形成、建材販売）することを推進します。

もったいない製品（加工品）の開発

担当課：経済課、建設課
関係主体：農協、水産組合、建設事業者

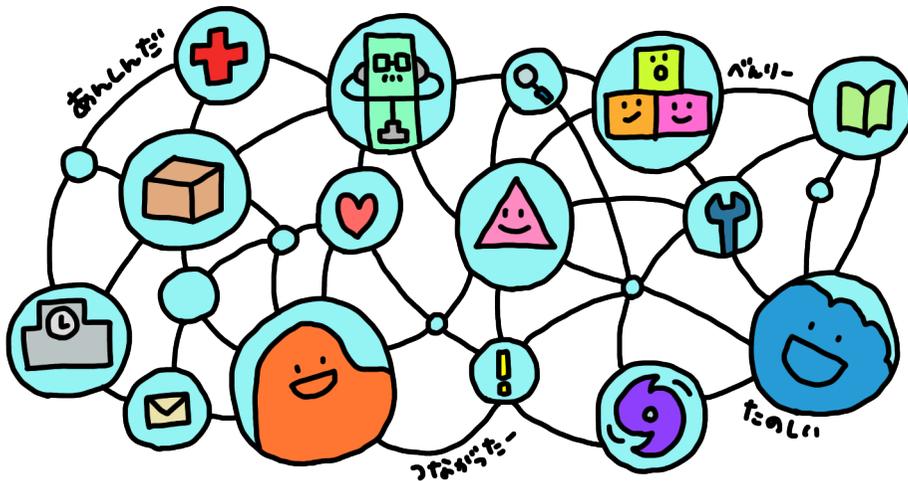
- 農業・水産業から発生する廃棄品については、食品ロスの低減に取り組み、新たな製品加工の可能性を模索し、商品開発を推進します。
- 地域資源の有効活用検討チーム発足（研究機関との連携）し、未開拓資源の有効活用の可能性を調査・検討します。

事業スケジュール

年度	R5	R6	R7	R8	R9
クリーンセンターの更新	施設計画	基本設計・実施設計		施設整備	
新エネルギー可能性調査・実証実験			可能性調査・実証実験		
好循環な産業活動の推進	適宜実施				
もったいない製品（加工品）の開発	農業・水産業 もったいない製品開発		未活用資源研究チーム発足 調査・検討・製品化		

※色塗りは期間内に着手する目安です

5 海を超えるICT*プロジェクト



沖縄本島と北大東島間を結ぶ海底光ケーブルが陸揚げされたことにより、情報通信基盤が整いつつあります。今後は、様々な分野や産業でICT活用を進め、物理的な距離が招いていた格差や不利を解消し、海を越えてモノ・ヒト・コトが広い世界と繋がるしまづくりを行います。

プロジェクトの方向性

- 次世代の暮らし方、働き方をサポートする情報通信網の充実が重要です。光回線の島内充実を実現させ、暮らしや生業の質の向上を目指します。
- スマートな産業への対応、先進的な就業を実現するため、ICTの利活用を推進します。
- 遠隔離島においても安心して充実した暮らしを実現させるため、特に学校教育や医療・福祉の分野においては、情報通信およびICT環境の強化を推進します。
- 情報通信やICTの利活用にあわせては、施設整備や機能強化を推進しながら、最新のテクノロジーをオペレーションする人材の確保・育成を図ります。

*ICT：Information and Communication Technology（インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー）の略。コンピューターやインターネット、携帯電話などを使って情報処理やコミュニケーションを行う情報通信技術のこと。（参考：大辞泉）

具体的な事業内容

医療・教育・福祉分野へのICT導入強化

主担当課：総務課 連携課：福祉衛生課、教育委員会
関係主体：診療所（南部医療センター）、学校、社協

- 医療施設、教育施設、福祉施設においては、積極的なICT機能導入と強化を図ります。
- 診療所については、医療格差を可能な限り小さくし、沖縄本島の医療機関（南部医療センター）の医療サービスが北大東島でも可能となるよう、充実した施設および設備の更新を図ります。
- 学校教育現場においては、GIGAスクール*やICTを活用した学校教育の充実を図るとともに、放課後の多様な学びや活動を支援する情報インフラの整備を目指します。
例) デジタル図書館、オンライン部活動、eスポーツ、メタバースなど
- 福祉については、ICTを活かした見守り体制の構築を目指すとともに、支援対象者が在宅しながら、福祉サービスや医療サービスが受けれるよう、関係機関との連携強化を推進します。

*GIGAスクール：文部科学省が提言しているICTを活用した教育方針のこと。児童生徒が1人1台タブレットなどの端末を持ち、それぞれに最適化された創造性を育む教育の実現を目指すもの。

情報インフラの充実による生活・生業の質の向上

主担当課：総務課

- 島内の情報通信インフラの充実を早急に進めます。
- 各家庭および事業所への光回線接続を推進し、設備導入（整備含む）への補助を検討します。
- 大手携帯電話（キャリア）事業者へ超高速通信・無遅延に対応する基地局の整備を働きかけます。
- 島内移動や物流においては、積極的に次世代型モビリティの活用を検討します。
- 港湾における荷下ろし作業においては、ドローンなど次世代空モビリティの可能性を模索し長期的な実現を目指します。

デジタルリテラシーの確保・育成

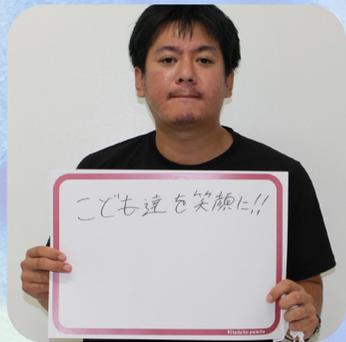
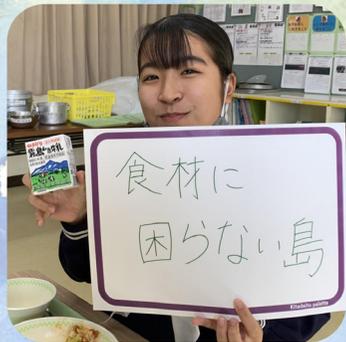
主担当課：総務課
関係主体：島内全事業者

- 国や沖縄県のデジタル行政部局と協力・連携し、北大東村役場におけるデジタルリテラシーの確保・育成に努めつつ、デジタル担当係の設置を検討します。
- 島内各事業者へのデジタルリテラシーの確保・育成のサポート制度を検討します。

事業スケジュール

年度	R5	R6	R7	R8	R9
医療・教育・福祉分野へのICT機能導入・強化			適宜実施		
情報インフラの充実による生活・生業の質の向上			適宜実施		
デジタルリテラシーの確保・育成			適宜実施		

※色塗りは期間内に着手する目安です



3. 施策の展開

ここでは、前期基本計画施策体系図（P14-15）で示した24項目の施策について、背景となる現状や課題、取り組むべき事項や連携先など具体的な展開をまとめています。

- 施策ページの見方 -

■ 24項目の施策ごとに現状や課題、目指すべき方向性など施策背景が確認できます。

青色 生活

茶色 生業

緑色 自然

赤色 統合

施策
01

豊かに暮らし続けられる北大東島
出産・子育て支援体制・制度の充実

北大東島には産科や分娩施設がありません。また、島外出身の母親も多く、さまざまな不安を抱えての妊娠・出産・子育てとなります。経済面や心と体の健康面を島ぐるみで支え、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを進めます。



【村民アンケート】
出産・子育てのより良い環境づくりに必要だと思うこと



関連施策



■ 施策に関連する写真やグラフなどを掲載しています。総合計画策定にあたり実施した村民アンケートの結果も掲載しています。

■ 施策同士の関連性を体系図として整理しています。他分野の施策との連携を考える際活用します。

施策の展開1つひとつを着実にこなしていくことで、前期基本計画に掲げる施策の実現につながります。

■ 前期基本計画において実施する施策の方向性や具体的な取り組みを記載しています。

■ 主な施策の実施主体または関連主体を示しています。

基本計画
前期5年間で取り組むこと

施策の展開

出産・子育て支援の継続・拡充 福祉

- 妊婦健康診査受診や不妊治療にかかる渡航費・宿泊費支援、出産祝い金（出産助成金）を継続し、出産・子育てに関する経済的支援を実施します。
- 島内でも安心して妊婦期を過ごせるよう、診療所における医療体制強化を推進します。
- 児童手当・子ども医療費支援を継続し、家庭等における生活の安定に寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな成長および資質の向上を支援します。
- 妊産婦、母子および父子のケア・サポート体制の充実を図り、安心して子育てができる環境づくりを推進します。

保育・就学前幼児教育環境の充実 福祉 教育 学校 社協

- 子ども達が安全・安心して楽しく保育生活を過ごせるよう、こども園における保育環境の向上、保育士の確保および質の向上を推進します。
- 北大東島の豊かな自然環境や芸能文化を積極的に保育へ活かし、小さな頃から北大東島への愛着づくりを進めます。
- 地域拠点（字集会所）等における子育て支援や交流を推進し、地域全体で子育て環境の向上に努めます。
- 発達の遅れや障がいのある子どもの相談体制や支援充実、多様性を認め助け合う社会づくりを推進します。

島ぐるみで子育て世帯を応援する仕組みづくり 福祉 教育

- 各字の集会所などのコミュニティ拠点を活用し、子育て世帯の居場所・生きがいづくりとしてのイベントやサークル活動などの開催支援を行います。
- “島外から嫁いできたママさんモニター制度”を創設し、各産業の新たな事業展開等の際に、島外からの客観的視点を活かしつつ、日常の息抜きや島の魅力を知る機会の創出を図ります。
- 子を持つ親のみならず、島内の大人が保育・教育の場に参画できる機会の創出を図り、島全体で子ども達の成長を喜べる環境づくりを進めます。

目標値

出生数（5年間）	基準値（H28-R2） 29人	▶	目標値 30人
0～4歳の人口	基準値（R2） 35人	▶	目標値 40人

- 全課 役場全課
- 総務 総務課
- 経済 経済課
- 福祉 福祉衛生課
- 建設 建設課
- 会計 会計課
- 教育 教育委員会
- 学校 小中学校
- 社協 社会福祉協議会
- 診療 診療所
- 警察 警察駐在所
- JA JA 北大東支店
- 奉賛 奉賛会
- 農家 農家
- 各事 村内各事業者
- 観光 観光事業者
- 建事 建設事業者
- 製糖 製糖事業者
- 水産 水産組合
- 養殖 陸上養殖事業者
- 自衛 自衛隊

■ 施策を展開していくことで数値として成果が見えてくる事項に対して、目標値を定めています。この目標値は、毎年最新数値を確認し、進捗具合をチェックします。

施策 01

豊かに暮らし続けられる北大東島

出産・子育て支援体制・制度の充実

北大東島には産科や分娩施設がありません。また、島外出身の母親も多く、さまざまな不安を抱えての妊娠・出産・子育てとなります。経済面や心と体の健康面を島ぐるみで支え、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを進めます。



資料：住民基本台帳

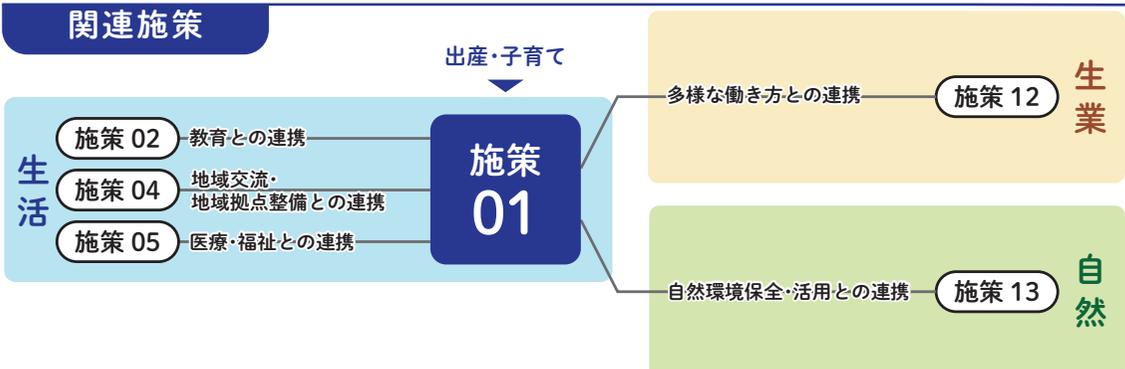
【村民アンケート】

出産・子育てのより良い環境づくりに必要だと思うこと



資料：北大東村総合計画・総合戦略に関するアンケート調査

関連施策



施策の展開

出産・子育て支援の継続・拡充

福祉

- 妊婦健康診査受診や不妊治療にかかる渡航費・宿泊費支援、出産お祝い金（出産助成金）を継続し、出産・子育てに関する経済的支援を実施します。
- 島内でも安心して妊婦期を過ごせるよう、診療所における医療体制強化を推進します。
- 児童手当・子ども医療費支援を継続し、家庭等における生活の安定に寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな成長および資質の向上を支援します。
- 妊産婦、母子および父子のケア・サポート体制の充実を図り、安心して子育てができる環境づくりを推進します。

保育・就学前幼児教育環境の充実

福祉

教育

学校

社協

- 子ども達が安全・安心して楽しく保育生活を過ごせるよう、こども園における保育環境の向上、保育士の確保および質の向上を推進します。
- 北大東島の豊かな自然環境や芸能文化を積極的に保育へ活かし、小さな頃から北大東島への愛着づくりを進めます。
- 地域拠点（字集会所）等における子育て支援や交流を推進し、地域全体で子育て環境の向上に努めます。
- 発達の遅れや障がいのある子どもの相談体制や支援充実、多様性を認め助け合う社会づくりを推進します。

島ぐるみで子育て世帯を応援する仕組みづくり

福祉

教育

- 各字の集会所などのコミュニティ拠点を活用し、子育て世帯の居場所・生きがいづくりとしてのイベントやサークル活動などの開催支援を行います。
- “島外から嫁いできたママさんモニター制度”を創設し、各産業の新たな事業展開等の際に、島外からの客観的視点を活かしつつ、日常の息抜きや島の魅力を知る機会の創出を図ります。
- 子を持つ親のみならず、島内の大人が保育・教育の場に参画できる機会の創出を図り、島全体で子ども達の成長を喜べる環境づくりを進めます。

目標値

出生数（5年間）

基準値（H28-R2）

29人

目標値

30人

0～4歳の人口

基準値（R2）

35人

目標値

40人

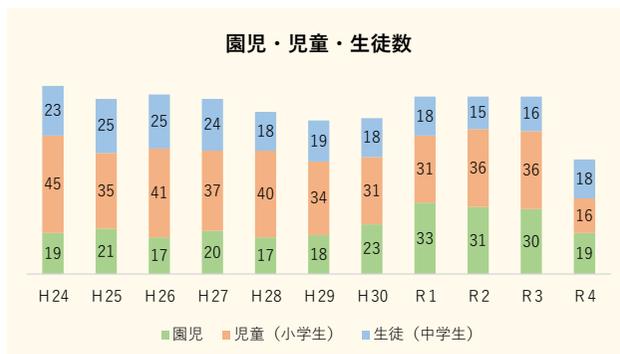
施策 02

豊かに暮らし続けられる北大東島

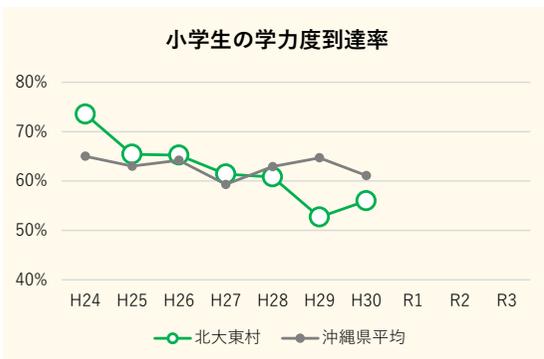
地域に根差した教育環境の充実

北大東島には高校がないため、子ども達は高校進学を機に島を旅立ちます。遠隔離島を理由に教育の質への引け目を感じることなく、ここでしかできない経験を糧とする教育環境を整える必要があります。

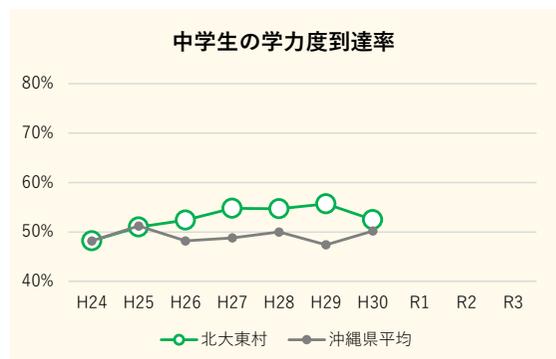
北大東島で育つ子ども達がのびのびと自己を形成し、多様性を認め合い、未来を切り拓く力を育てることができるよう、「島に誇りを、心に夢を」を学びの合言葉として、地域に根差した学校教育や放課後活動の充実を図ります。



資料：文部科学省「学校基本調査」、沖縄県「人口動態統計」

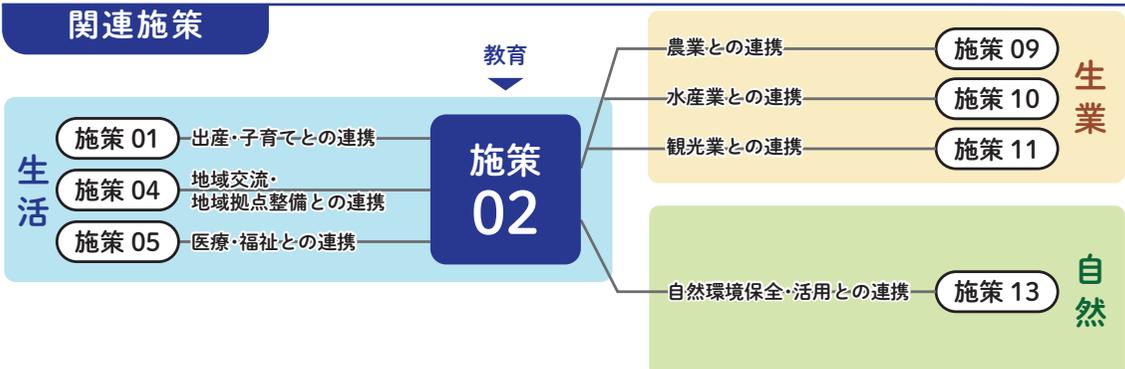


資料：沖縄県「沖縄県学力度到達調査」



資料：沖縄県「沖縄県学力度到達調査」

関連施策



施策の展開

教育環境の整備

教育

- 授業改善や積極的な地域学習の取り入れなどにより、基礎学力の向上、能動的な学びへつなげ「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。
- 海底光ケーブルの開通により安定した通信環境を活用し、遠隔授業やICTを活用した授業の増進にむけて端末整備および活用に関する支援を行います。
- 放課後や夏休みなどの長期休暇において、島内の多様な人材の参画により文化活動・スポーツ活動の充実を図ります。

北大東島らしい教育の充実・展開

教育

- 島への愛着や理解を深めるため、うぶあがり人と自然のミュージアムや小・中学校副読本の積極的かつ継続的な活用を進めるとともに情報の更新を行います。
- 島の経済を支える主要産業への職場体験や島内行事における子ども達の役割等を通じて、北大東らしいキャリア教育を推進します。
- 島外交流学习や交換留学実施に向け、連携先や島内の受け入れ態勢などについて調査・検討を行います。

15の春・旅立ちの支援

教育

- 島外の高等学校進学にあたり、生活費や帰省にかかる交通費の補助を行い保護者の経済的負担軽減策を継続します。
- 15の春で島を離れた高校生を対象として、島外での暮らしや就学に関する相談が気軽にできる見守り体制を構築します。

目標値

「沖縄県学力到達調査」における
平均正答率の
県と村の差(小学生)

基準値(R3)

-9.7ポイント

目標値

県平均以上

「沖縄県学力到達調査」における
平均正答率の
県と村の差(中学生)

基準値(R3)

5.1ポイント

目標値

県平均以上

施策 03

豊かに暮らし続けられる北大東島

島らしさあふれる行事・娯楽の充実

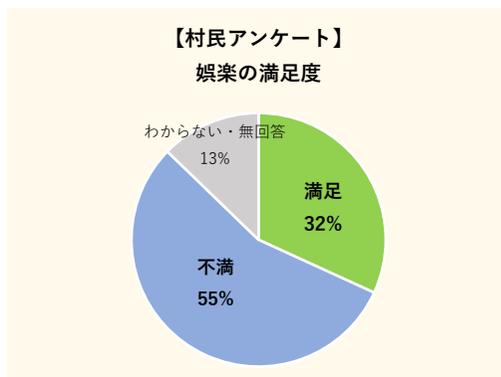
北大東島では、八丈島と沖縄の文化が融合した独特な祭りや伝統行事があり、開拓時代から続くものもあります。また、南・北親善競技大会や職域駅伝、村民運動会などのイベントも北大東らしさを表しており、地域コミュニティ・娯楽の一端を担っています。

近年、生活様式の変化や“行事疲れ”などから継続・継承が危ぶまれるものもある中で、島の歴史に深い結びつきがあるものや地域コミュニティ形成に欠かせないもの等、本来の意義やあり方を見つめ直します。

▼南北親善競技会

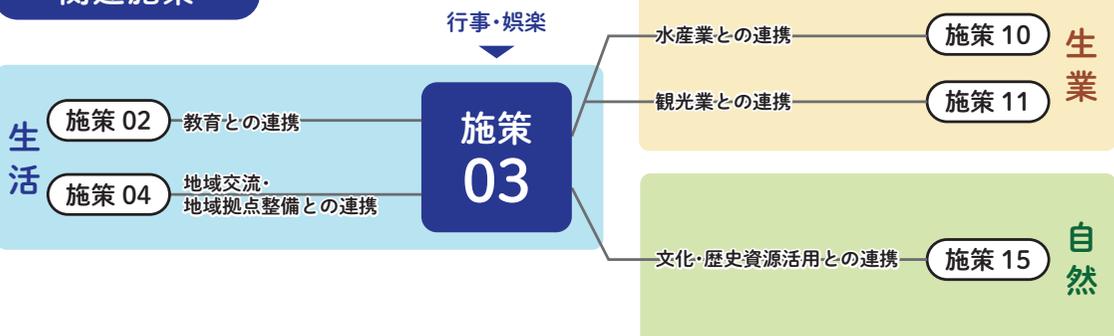


▼大東宮際の神輿巡業



資料：北大東村総合計画・総合戦略に関するアンケート調査

関連施策



施策の展開

伝統行事の維持・継承

教育 奉賛

- 大東宮祭、金刀比羅宮祭、秋葉神社祭の三大祭は、北大東島に欠かせない重要な伝統行事として、将来にわたり維持・継承に努めます。また、その行事催行、参加と交流を通して北大東島へのプライド・愛着の形成を図ります。
- 玉置祭、獣魂祭など多様な伝統行事も北大東島らしさを表す重要な文化として将来にわたり継承に努めます。
- 持続的に伝統行事を継承していくためにも、各行事の本質的価値を表す催しは可能な限り維持し、余興的に実施されるプログラムについては、短縮若しくは簡素化することを検討します。
- 伝統行事の準備から片付けまでの期間を通して、地域の結束力向上や地域理解を深める機会とし、継承者育成に取り組みます。
- 様々な伝統行事は、写真・映像で記録し、北大東島のアーカイブとして保存します。
- 伝統行事が催行される施設の維持管理、更新、快適性の向上を図ります。

地域コミュニティを形成する行事・イベントづくり

教育

- 南・北親善競技大会や職域駅伝、村民運動会等は、島の恒例行事として、また、地域コミュニティを形成・結束する場として可能な限り継続します。
- 島で暮らす全ての人々が、地域行事・イベントに気軽に参加できるよう、慣習的なカタチに囚われず、また、時代や村民のニーズに合わせたプログラムの催行に努めます。
- 青年会が実施するエイサー祭りのように、地域の活動団体、村民有志が主導・提案するイベントづくりを推進し、その活動を支援します。

遊びの拠点づくり

経済 建設

- スポーツ、アウトドア、音楽、芸能など多様な活動の拠点づくりとして、既存施設の機能拡充、島らしい景観を舞台とするなど魅力的なスポットの創出を図ります。
- 海の資源をより気軽に安全に活用できるよう、マリンスポーツや海岸遊び、磯釣りの拠点強化・充実を図ります。

目標値

青年会・ママさん会など
地域活動団体主催の
イベント開催数*

基準値
1回/年



目標値
3回/年

村内イベントに対する
村民の満足度
(アンケート結果)

基準値 (R2)
32%



目標値
50%

※体育協会、社会福祉協議会、奉賛会は除く。

施策 04

豊かに暮らし続けられる北大東島 地域の交流活動推進・拠点整備

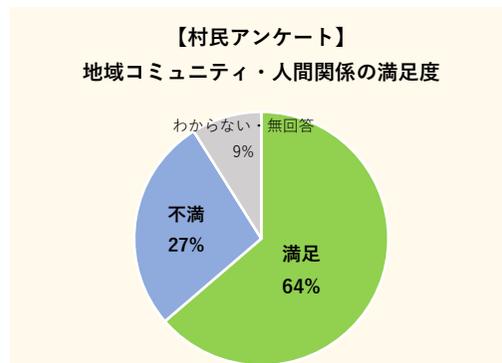
北大東島には3つの字（行政区）があり、それぞれに集会所が設置されています。地域行事になると、集会所を拠点に作戦会議、懇親会が行われるなど、地域活動・コミュニティの拠点施設として利用されています。さらなる利活用の促進に向けて、老朽化した施設の更新・リニューアルが求められており、防災機能を含め集会所の機能強化・充実が課題となっています。

人と人、モノとコトがつながることで地域課題を解決し、新たな価値を生み出すための場づくりや活動を継続するための支援を行います。

▼りんごウォーク（健康増進イベント）



▼集会所でのハロウィンイベント



資料：北大東村総合計画・総合戦略に関するアンケート調査

関連施策

地域交流・地域拠点整備

生活

全ての
施策

施策
04

多様な働き方との連携

施策 12

生業

景観形成との連携

施策 16

自然

施策の展開

地域の交流活動拠点の整備

総務

建設

- 老朽化が進む各集会所や広場・公園のリニューアルおよび新規整備計画を地域住民との協働により段階的に進めます。
- 集会所の計画・設計の段階では、地域住民の声を積極的に反映し、施工の一部、又はモニメントづくりを地域住民で造りあげます。
- 各集会所が自治会運営の拠点として活用するほか、地域住民が気軽に訪れ、くつろげる場所、また地域活動拠点として開放します。
- 各集会所においては、災害時の避難所としての役割が果たせるよう、施設内設備の更新や防災備品の設置・管理を行い、機能強化を図ります。

地域力向上に関連付けた取り組み支援

総務

教育

福祉

- 集会所においては、放課後活動（自主学習や運動）、子どもたちの遊びの場として提供するほか、地域住民とのふれあいをとおした児童・生徒の見守りを行います。
- 社会福祉協議会と連携し、高齢者との語り場、健康や体力増進の場として集会所の活用を図ります。
- 集会所では、多様な人たちの生涯学習や地域交流が可能となるよう、多目的な空間づくりと利活用を推進します。
- 各自治会が実施する様々な地域活動については、継続的な活動が可能となるよう積極的な支援（補助金）を実施します。

目標値

集会所（コミュニティ拠点）整備および更新の着手数

基準値 (R3)

0件



目標値

3件

施策 05

豊かに暮らし続けられる北大東島

医療・福祉サービスの充実と健康増進支援

島には診療所と歯科診療所があり、一次医療を受けることができますが、入院治療や精密検査などを必要とする場合は沖縄本島の医療機関へ通わなければなりません。緊急時には、自衛隊の協力のもとヘリコプター等による救急搬送を行っています。

安心して島で暮らし続けるには、新たな技術の導入や関係機関との連携などにより“離島医療の壁”を低くしていく必要があります。一方で、なるべく医療にたよらない健康な体づくりに取り組み、子どもから高齢者までが健康でいきいきと過ごせるしまづくりを進めます。

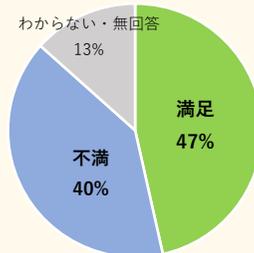
▼グラウンドゴルフ大会



▼敬老会



【村民アンケート】
医療・健康づくりの満足度



資料：北大東村総合計画・総合戦略に関するアンケート調査

関連施策



施策の展開

島内医療機能の強化・拡大

福祉 診療

- 診療所、歯科診療所において医療機器の更新や新規導入により対応できる処置の拡大を図ります。
- 島内にいながら島外医療機関と繋がり、遠隔医療を受けることのできる環境構築に向けて、先進地の調査を踏まえた方向性の検討やICT機器の整備等を進めます。
- 自然災害や人的災害、パンデミックなどの有事に備えた医療機能および連携体制を確保します。

島外治療にかかる負担の軽減

福祉 自衛

- 救急医療は一刻を争うため、医療機関および自衛隊との連携のもと、搬送にかかる時間短縮を図ります。
- 島外医療機関の受診にかかる医療費や交通費の負担を軽減する経済的支援を行います。

生涯を通じた健康づくり

- スポーツレクリエーションを通して、健康づくりと同時に地域交流につながる取り組みを推進します。
- 食生活・飲酒・生活習慣に関するの指導強化等により生活習慣病予防の取り組みを推進します。

地域包括体制の整備

福祉 学校 診療 社協

- こども園と複合型福祉施設の連携により、子どもと高齢者の世代間交流の機会創出を図ります。
- 社会福祉施設の機能拡充および社会福祉協議会の体制強化に向けた支援を行います。
- 農福観連携による6次産業化事業を継続的に取り組み、高齢者・障がい者等の就労・社会参画モデルとして定着させ、他の産業への展開を視野に連携先の拡大を図ります。
- より多くの人々が理解・利用しやすい環境づくりに向けて、ユニバーサルデザインの理念に基づく施設・媒体整備を推進します。

目標値

特定健診受診率

基準値 (R4)

67%

目標値

75%

施策 06

豊かに暮らし続けられる北大東島 暮らしを支える生活基盤の整備

北大東島では、住宅および宅地不足が長年の課題となっており、住む場所がなくUターンや移住を諦めてしまう場合があります。また、僻地離島であるため、輸送を含む住宅の建設費は相当な負担となっています。そのため、北大東村では公営住宅の充実や家賃低減対策を実施し、住生活の向上に努めており、継続的な支援を行っています。

北大東島での居住・定住を推進し、生活を豊かにしていくためにも、暮らしを支える生活基盤整備に取り組みます。

▼村営住宅

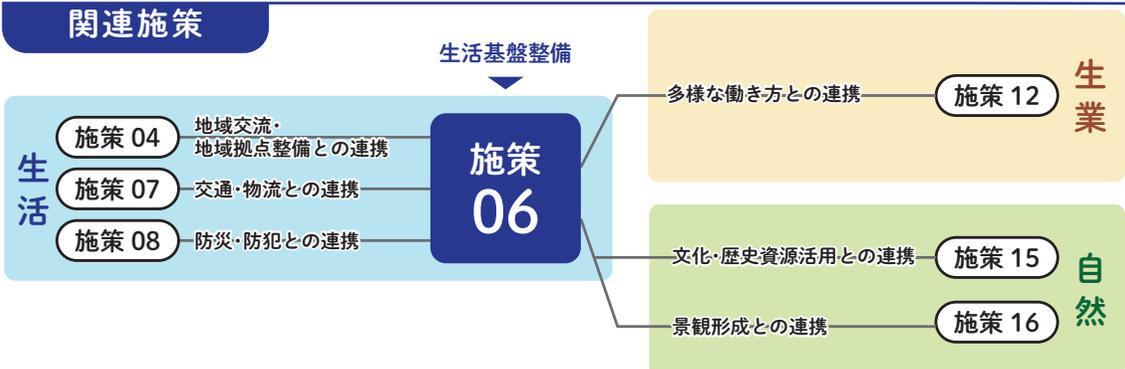


▼定住促進住宅



資料：北大東村総合計画・総合戦略に関するアンケート調査

関連施策



施策の展開

各字の住環境の整備・拡大

建設

- 住宅や宅地需要に対応する居住空間の整備に向け、字集会所を中心とした居住地（集落）の形成・拡大を検討し、コンパクトな居住空間づくりを推進します。
- 高い住宅建設費への対応として、輸送費や設計費の負担軽減策に向けた支援を関係機関と連携し検討します。
- 公営住宅は、適切な維持管理および長寿命化を推進し、居住のミスマッチ解消（住み替え）を図りつつ、建替えの場合は、各字の居住空間（集会所周辺）への集約を図ります。
- 各産業主体と連携し、産業振興と定住を支援する産業振興住宅の充実を図ります。
- 高齢者が安心して豊かに暮らせるよう、高齢者向けの公営住宅の充実についても積極的に検討します。
- 公営住宅を適正量に拡充し、民間の賃貸住宅建設の活発化を促進します。
- 将来的には公営住宅を含め島内の住宅供給へは、民間活力（PPP/PFI）の活用の可能性を検討します。

暮らしを支える生活インフラの充実

福祉

建設

診療

- 良好な住環境づくりに向け、生活インフラ（道路・電気・水道）の適切な維持管理に努め、老朽が認められる施設は、適宜更新します。
- 効率的で経済的な公共施設の維持管理運営に向けては、可能な限り生活インフラの集約化に努め、コンパクトに管理できる環境づくりを推進します。
- 次世代の暮らしに対応すべく、島内の情報通信インフラの整備を推進しつつ、大手通信企業へは超高速・低遅延を実現する基地局整備を働きかけます。
- 生活を支える食料自給に向けては、水耕栽培の検討および家庭菜園を促進として共同販売所を含む出荷・流通体制の整備を検討します。

目標値

持家世帯数

基準値 (R2)

93世帯

目標値

100世帯

新規宅地の
整備計画※着手

基準値 (R4)

0箇所

目標値

3箇所

※調査含む。

施策 07

豊かに暮らし続けられる北大東島 島と島を結ぶ交通・物流

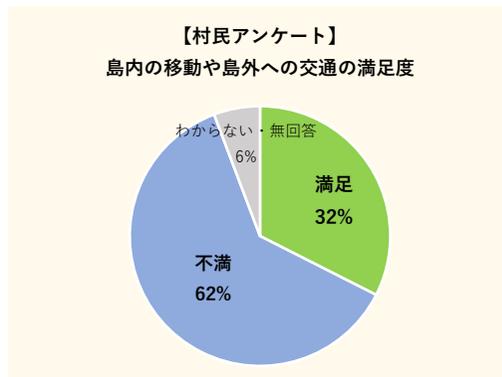
島外交通には、1日1便沖縄本島と南北大東島をつなぐ航空便と週1便程度の海上便があります。厳しい自然環境にある北大東島では強風・波浪などの気象条件により、貴重な交通・物流の機会が奪われることも少なくありません。

島外に向けて開かれたしまづくりの発展や安心して暮らしを続けていくためには、交通・物流のさらなる安定化、低廉化を進めていく必要があります。

▼DHC-8-400カーゴコンピ (50人乗りプロペラ機)

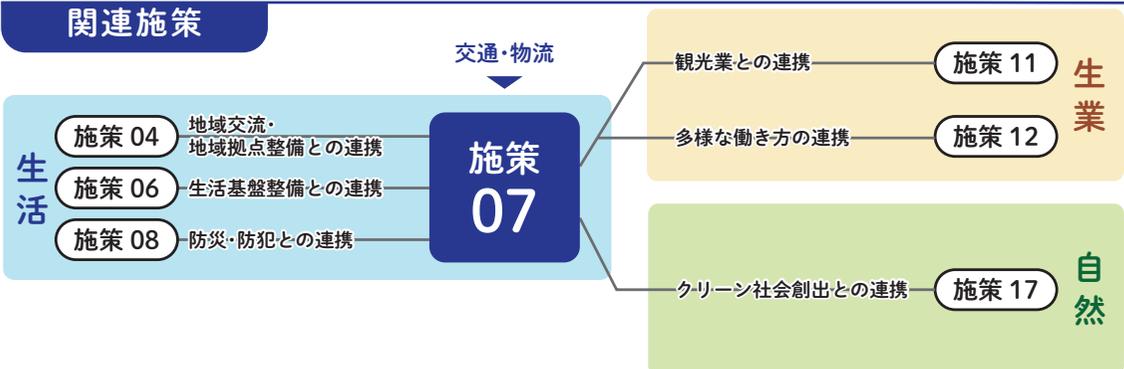


▼貨客船「だいとう」



資料：北大東村総合計画・総合戦略に関するアンケート調査

関連施策



施策の展開

航空輸送体制の強化

総務

- 村民が気軽に沖縄本島と往復ができ、生活の行動範囲が拡大するよう、航空運賃のさらなる低廉化（村民割）の実現を推進します。
- 島外との往来や物流の活性化、観光客の受入、農水産物の出荷・販路拡大に向けて、航空機の1日2便体制の実現を関係機関に働きかけます。
- 北大東島と沖縄本島の往来・物流の活性化を図り、将来的には大型機の発着ができるよう、空港施設の機能拡充の可能性を検討します。
- 航空機離発着時以外における空港施設の利活用について、可能性を検討します。

海上輸送体制の強化

総務

- 北大東島の物流コスト低減に向け、国や沖縄県、南大東村と連携を図り、海上輸送に係る負担軽減対策を講じます。
- 南・北大東両村で所有する船舶「だいとう」の維持管理・長寿命化を図りつつ、海上輸送体制の強化に向け、新船舶への更新を南大東村と連携し検討します。
- 村民交流や観光ツアー、物流の活性化に向けては、南北大東間における海上輸送手段の確立を関係機関と連携し検討します。
- 港湾体制や作業の効率化に向けては、クレーンオペレーションの自動化、ドローンによる荷役等の可能性を模索します。

目標値

1日当り航空機
輸送人数

基準値 (R4)

50人



目標値

100人

施策 08

豊かに暮らし続けられる北大東島

災害に強く、安全に暮らせるしまづくり

北大東島は台風の常襲地域です。台風をはじめ集中豪雨、火災、万が一に発生する自然災害による被害を最小限に抑え、迅速に避難・救助・復旧ができる体制を整えます。また、島での犯罪や交通事故のないしまづくり、安全に暮らせる社会を目指します。

▼荒天時、港に打ち付ける大波



▼消防団



▼防災備蓄倉庫



▼小中学校防災訓練



関連施策

防災・防犯

生活

- 施策 04 地域交流・地域拠点整備との連携
- 施策 05 医療・福祉との連携
- 施策 07 交通・物流との連携

施策
08

観光業との連携

施策 11

生業

自然環境保全・活用との連携

施策 13

自然

施策の展開

北大東村消防体制の強化

総務

- 北大東村内の消防組織である消防団の定数確保・維持を図りつつ、消防団員の知識向上にむけた訓練・研修等を推進します。
- 沖縄県消防指令センターや自衛隊、海上保安庁等と連携し、防災体制の強化を図ります。
- 消防施設および消防車両、装備品等の適切な維持管理を実施するとともに、計画的な設備更新および機器導入を検討します。
- 災害時に備えた備蓄品の充実、非常用電力および情報通信網の確保を図ります。

災害に負けないしまづくり

総務

建設

- 地域防災計画の見直し・策定を推進します。
- 各字、村内企業、学校等と連携した防災訓練（避難訓練、消火体験、防災キャンプ、要配慮者対応など）を実施し、地域の防災力向上を図ります。
- 各字、青年会および婦人会等における地域活動団体において、自発的に防災活動に取り組む「自主防災組織」発足および活動について積極的に支援します。
- 道路や水道管、電気など社会インフラの強靱化を図ります。
- 住宅の耐震・耐風性能強化、防風林（屋敷林）整備に関する支援を検討します。
- 空港や港湾は、島の玄関口として施設の強靱化、防災機能の向上、緊急輸送体制の強化に努めます。

健全な社会環境づくり

総務

警察

- 地域の防犯力の向上に向け、地域巡回や見守り体制構築を支援・推進します。
- 沖縄県警察と連携しながら、未然の犯罪防止、交通安全対策の強化を推進します。
- 村内企業と連携し、飲酒に絡む犯罪や飲酒運転の防止・意識啓発を徹底します。

目標値

消防団員数

基準値 (R2)

35人

目標値

40人

出火件数

基準値 (R1)

1件

目標値

0件

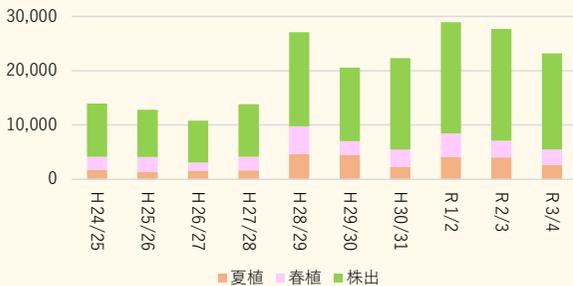
施策 09

多様な働き方が実現する元気な北大東島 高付加価値な農業の振興

北大東島の基幹産業はサトウキビづくりです。サトウキビの生産量および品質向上を目指していくため、持続可能な農業生産環境づくりを進めていく必要があります。サトウキビ間作として栽培されるジャガイモやカボチャは高い市場評価を受ける島の特産品として認知され、今後も生産量拡大が期待されています。

一方で、農家人口減少や高齢化が農業の課題となっています。次世代の農業に対応するスマート農業や法人化への展開を進めながら、収穫期における人手不足を解消するための連携体制づくりと就労支援を進めます。

サトウキビの収穫量 (t)

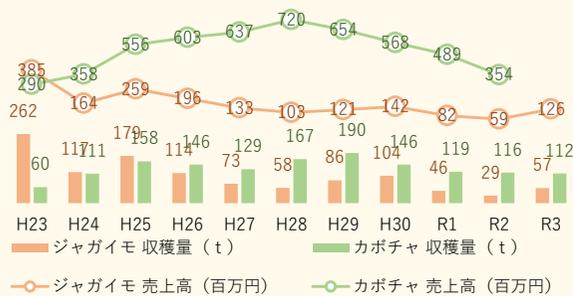


資料：北大東村「農作物実績」、沖縄県「さとうきび及び甘しょ糖生産実績」

▼サトウキビ畑と点滴かんがい設備



ジャガイモ・カボチャの収穫量・売上高

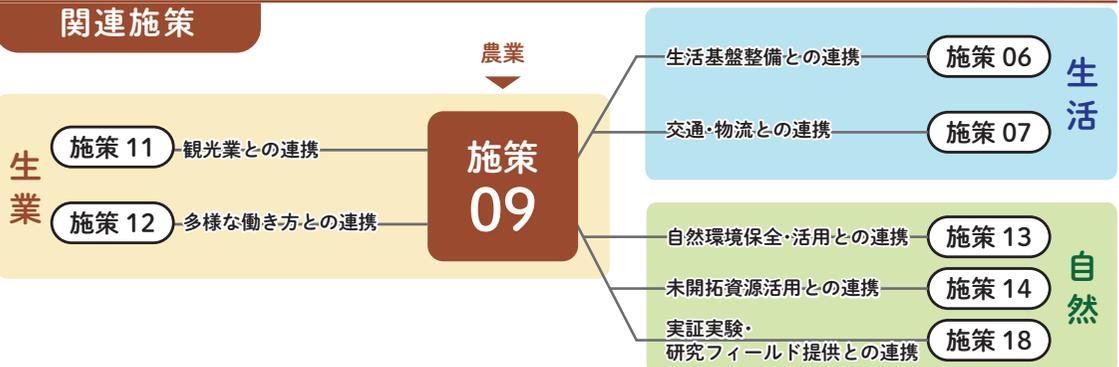


資料：北大東村「農作物実績」

▼カボチャの収穫風景



関連施策



施策の展開

持続性の高い農業生産環境の整備・充実

経済

建設

JA

農家

- 農業生産基盤整備の早期達成に取り組むとともに、特に灌漑施設および貯水施設（水源施設）整備を加速させます。
- 生産性向上に向けた土壌改良（土づくり）による地力の増進を積極的に推進するとともに、農業や化学肥料の適正量の研究・分析を推進します。
- スマートな農業活動を実現するため、ICT、5G、ドローン、AI、自動化など先進的な農業技術の導入を図ります。
- 天候や季節に左右されないハウス栽培（水耕栽培を含む）、植物工場など施設栽培の導入・機能拡大を検討し、野菜類の島内流通を目指します。

高付加価値農産物への展開

経済

JA

農家

観光

水産

- 基幹産業であるサトウキビの生産量向上を図りつつ、併せて付加価値の高い農作物の栽培を推進します。
- サトウキビとの輪作として生産されるジャガイモ・カボチャは、高い市場評価・需要に基づく生産量および品質向上、さらなる販路開拓を図ります。
- 畜産業の可能性を含め、新規の高付加価値品目の導入、農産物への展開を検討します。
- 6次産業の推進を図るために、観光業や水産業など多様な産業と連携しながら、生産・加工・販売（販路開拓）など、北大東島ならではの付加価値の高い農産物生産システムの構築を目指します。

農業生産体制および担い手確保・育成の支援

経済

JA

農家

製糖

- 農業生産法人の組織化を支援し、効率的な農業活動および人材確保・育成を推進します。
- 収穫期における短期的就労への支援、流動的な人材確保体制の構築を検討します。

目標値

サトウキビ生産量

基準値 (R2/3期)

27,725トン

目標値

31,684トン

農業総生産額

基準値 (R1)

356百万円

目標値

541百万円

施策 10

多様な働き方が実現する元気な北大東島 水産業の拡大と活性化

念願だった北大東漁港の開港を契機に、漁獲量の大幅な増加が実現しました。今後も、漁業振興に向けた様々な施策を講じ、さらなる漁獲量の増加、対象漁種拡大が期待されます。また、陸上養殖施設で養殖されるアワビやヒラメは、北大東の新たな特産品として市場で取引され、水産業活性化の一端を担っています。

引き続き高度な品質管理を徹底しながら、水揚げされた水産物の販路開拓、効率的かつ効果的な水産業の運営体制の構築・強化が重要です。



資料：北大東村「水産業実績」

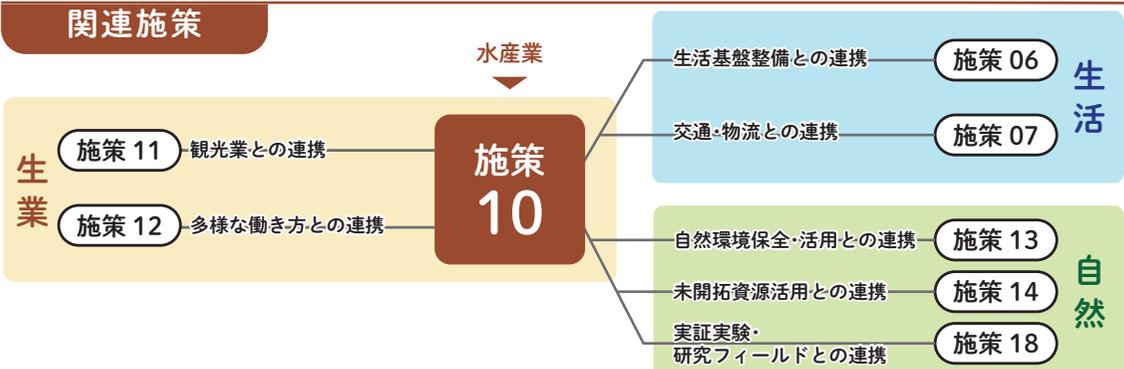
▼近海産のオキザワラ



▼陸上養殖のアワビ



関連施策



施策の展開

マグロ・サワラの漁獲量・対象漁種の拡大

経済 水産

- 漁業機会および漁獲量拡大に向け、新規中型漁船の導入支援を実施するとともに、漁獲量（水揚げ量）に基づく水産加工施設の機能強化・充実を図ります。
- 漁港の補完港として、北港付近への漁船等の船溜まり整備を推進します。
- 漁船の省エネ化、漁具の適正使用、廃棄物の適正処理を徹底し、北大東島近海の海洋環境の保全に努めます。
- 水産組合と連携し、定期的な水質調査・モニタリングによる海洋資源管理を実施します。
- 主力漁種であるマグロ・サワラの生産量の拡大、新規漁種（例えば、ソデイカ、ナワキリ、キンメダイなど）への展開および販路開拓を推進します。
- 漁業協同組合の設立に向けて、関係機関へ継続的に働きかけるとともに、村民が漁労に参画（多様な働き方の実現）、水揚げができるような仕組みづくりを検討します。
- 北大東島近海による県外違反操業船舶の監視・取締りを強化しつつ、避難漁港の特性を活かした県外船からの水揚げ体制の構築を検討します。
- 近海へのパヤオ新設など漁獲量の拡大と新規就業者の育成を図ります。

陸上養殖施設の生産量拡大・機能拡充

経済 水産 養殖

- 陸上養殖施設における栽培品の生産量の拡大に向け、生産体制整備・強化を図ります。
- アワビ・ヒラメの生産量拡大を推進しながら、陸上養殖に適した品目開発を検討します

北大東ブランドの確立・販路の拡大

経済 水産 養殖 観光

- 水産業関係者への品質管理の技術および意識向上、地域HACCP*の確立を図り、質の高い北大東ブランドの確立および販路開拓を推進します。
- 島内流通や島内飲食店での取扱いを推進しつつ、土産品・島外飲食店舗向けの水産パック（高級小魚、刺身パック、加工品等）への展開を関係機関と連携し検討します。
- 観光事業者と連携を図りながら、遊漁やフィッシング大会、ブルーツーリズムを実施します。

*HACCP：、食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法のこと。（出典：厚生労働省HP）

目標値

マグロの年間
漁獲量の拡大

基準値 (R3)

72.8トン

目標値

87.3トン

陸上養殖水産物
出荷額

基準値

0.3百万円

目標値

15百万円

水産業総生産額

基準値 (R1)

15百万円

目標値

130百万円

施策 11

多様な働き方が実現する元気な北大東島 北大東島を魅せる観光業の推進

北大東島は沖縄本島とは違った自然、歴史・文化が育まれており、他にはない北大東島らしさを特徴づける資源が豊富に存在します。特に北大東島近海は、フィッシングやダイビングなど海洋レクリエーションのポテンシャルが高く、観光資源としての有効活用が期待されています。

観光業の発展に向けては、観光コンテンツづくりに加え、観光受入および連携体制の整備、各産業と連携しながら、村民の島への愛着や誇りと共に成長していくことを目指します。

北大東島への入域観光客数

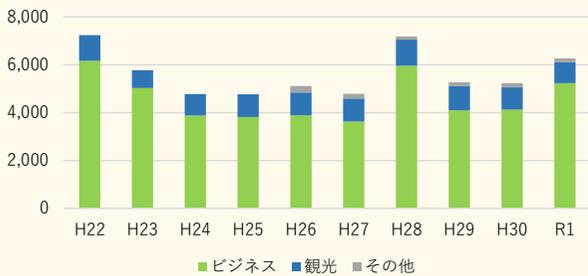


資料：沖縄県「離島関係資料」

▼マリン事業モニター



ハマユウ荘利用者の目的

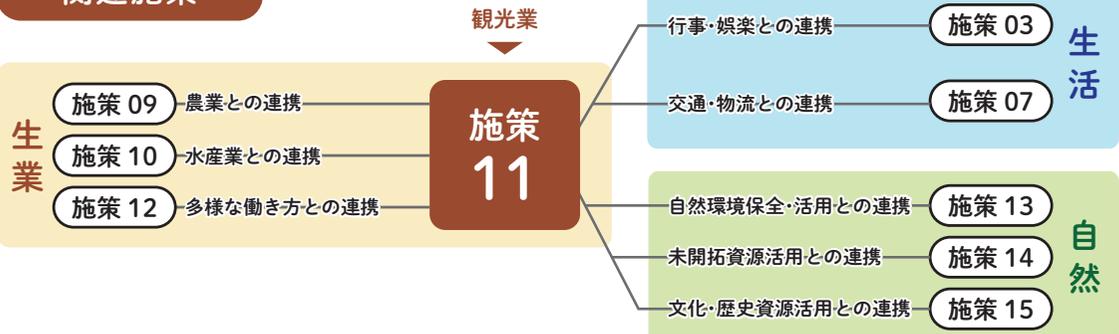


資料：ハマユウ荘「利用者集計表」

▼島内散策サイクリング



関連施策



施策の展開

北大東島の観光モノ・コト・トキづくり

経済 観光

- 北大東島の自然や歴史・文化を活かした観光拠点やコンテンツ開発を実行し、付加価値の高い北大東観光づくりを推進します。
- ビジネス客に対し、ワーケーションやブレジャーを呼びかけ、北大東島にしながら仕事と余暇を楽しめる観光モデルを提案し誘客・延泊に繋げます。
- 大学や企業の研究・研修、ビジネス客の遠隔就業に対応できるワーケーション施設の整備を推進します。
- 将来的にはハイエンド層への対応を視野に入れた創造性のある観光環境づくりを推進します。

観光推進体制の構築

経済 観光

- 観光に特化したマーケティングやマネジメントを担う、南北大東両村による地域連携DMO*の設立に向けた検討・調整を進めます。
- 学校教育や生涯学習、生業が観光活動に還元・定着されるよう、村民が観光活動（ガイド）に参加でき、報酬が得られる仕組みを検討します。
- 南大東村やその他離島地域、県内外の観光事業者と連携・情報交換を図り、観光客誘致や受入体制の構築を推進します。
- 多様な情報発信ツールを活用し、北大東島観光プロモーションを積極的に実施します。

*DMO：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実現するための調整機能を備えた法人のこと。（出典：北大東村観光振興基本計画）

各産業をつなぐ観光業

経済 観光

- 農業や水産業、商業、サービス業をつなぎ、産業連携の要として観光業の活性化を図ります。流通や加工、商品開発、人材交流などを連携することで各産業が抱える課題の解決を目指します。

目標値

観光関連事業の
就業者数

基準値 (R2)

34人



目標値

50人

観光ガイド人数

基準値

1人



目標値

5人

施策 12

多様な働き方が実現する元気な北大東島 多様な働き方の推進と支援充実

開拓以降、村民1人ひとりが複数の役割を担いながら助け合ってきた共助の精神は北大東らしさを特徴づけています。この特徴ある働き方を尊重し、多様な就業が可能となる環境づくりが重要です。

新たな働き方の実現に向け、島内外のどこからでも働ける新たな就労環境、ライフワークバランスの確保が重要です。生活と生業の中で「生きがいづくり」を実現させ、持続可能なしまづくりを進めます。



関連施策

多様な働き方

生業

施策 09 農業との連携

施策 10 水産業との連携

施策 11 観光業との連携

施策
12

生活基盤整備との連携

施策 06

生活

全ての
施策

自然

施策の展開

多様な働き方の実現

総務 各事

- 特定の仕事に従事（専業）しながらも、農業、漁業、商業、観光業など、多方への兼業（副業）を推進します。
- 村内事業所が連携・提携し、人材確保の一本化によるスムーズな人材流動を図ります。
- 役場職員の副業制限緩和を検討し、職員が積極的に地域活動（有償活動）に参加できる仕組みづくりを検討します。
- 多様な産業を束ねた総合産業の設立を支援し、同組織の中で農業、漁業、建設業など産業間を超える就業を目指します。

生きがいづくりを後押しする新しい就業環境の実現

総務 経済

- 多様な働き方は、島内居住・定住を促すことも期待されるため、「島から外へ」「外から島へ」が実現するICTを含む情報通信インフラの充実を図り、新たな就業環境づくりを支援します。
- 村民が1つのキャリア（職業）にとらわれず、複数のキャリアを持ち、島での生きがいや暮らしを豊かにするため、北大東版パラレルキャリアの制度設計を推進します。
- 北大東島での新規ビジネスを後押しする「(仮称)新規ビジネス創出支援制度」を検討します。

目標値

パラレルキャリア
推進制度の利用者数[※]

基準値 (R4)

0人



目標値

50人

技術向上に向けた
研修への参加者数[※]

基準値 (R4)

0人



目標値

50人

※累計数

施策 13

自然と共に生きる環境循環型の北大東島 北大東島の自然環境保全・活用

5,500万年以上前に、現在よりもはるか南の赤道付近で誕生した北大東島は、珊瑚礁の成長や海面移動、プレート移動によって形成し、独自の地形・地質、生態系を有する島です。

島を形成するドロマイトの地質は、世界でも貴重な島として注目され、島の形成過程の解明が、大陸やプレート形成の手掛かりとされています。

島の自然環境は、村民にとって貴重な財産であり、生活や生業の土台として、現在まで受け継がれています。

▼長幕



▼ドロマイト



▼ダイトウオオコウモリ



関連施策

自然環境保全・活用

- 自然
- 施策 14 未開拓資源活用との連携
 - 施策 16 景観形成との連携
 - 施策 17 クリーン社会創出との連携

施策 13

- 生活
- 教育との連携 施策 02
 - 防災・防犯との連携 施策 08

- 生業
- 農業との連携 施策 09
 - 水産業との連携 施策 10
 - 観光業との連携 施策 11

施策の展開

自然環境の保全・活用

総務 各事

- ダイトウオオコウモリをはじめ、北大東島および周辺海域に生息する希少な動植物の保護、長幕(崖壁および崖錐の特殊植物群落)の保全等により生物多様性を確保します。
- 外来種については、適切な駆除を推進しつつ、地域資源として有効活用を検討します。
- 北大東島を特徴づける地形や地質・土壌については、その形成過程を研究機関と連携して調査するとともに、地域学習や観光資源として活用します。
- 南大東島と連携し、地質遺産(ジオパーク)の可能性を調査・検討します。
- 自然保全に対する村民の意識醸成に向けて、自然環境に関する学習や体験イベントを実施します。
- 地域活動団体が主体的に実施する自然環境保全活動への積極的な支援を行います。
- 自然環境の保護・保全のため、入域観光税の導入を検討します。

環境負荷の少ない産業活動

経済 水産 JA 建事 製糖

- 農業活動は、生産環境と自然環境とバランスがとれるよう、農薬および化学肥料の適正利用を推進します。
- 沈砂池や排水路、グリーンベルトの整備および適切な維持管理により、農地からの耕土流出防止対策を講じます。
- 漁業活動は、釣具や漁具の徹底管理、廃棄品の適正処理・再利用により、海洋環境の保全に努めるとともに、定期的な海域の水質調査を実施します。
- 全ての産業活動において、環境負荷がないよう、産業廃棄物の適切処理、産業排水の水質浄化を徹底し、可能な限りクリーンエネルギーの活用および低炭素化を促進します。

目標値

海水COD*

基準値

未計測

目標値

2mg/L

*COD：化学的酸素要求量のこと。河川や海水などの汚れの度合いを示す指標のひとつであり、水中の有機物を酸化するために必要とする酸素の量。1リットルあたりのミリグラム数を測定し、値が大きいくほど汚染が進んでいる。(参考：大辞泉)

施策 14

自然と共に生きる環境循環型の北大東島 未開拓資源を活用した地域おこし

北大東島では、これまで様々な資源を活かして、生活や産業を豊かにしてきました。しかし、地下浸透海水やギンネム、インガンダルマなど、まだ十分に活用されていない資源も残されています。特に、地下浸透海水は、低温安定性、富栄養性、清浄性が推測され、水産養殖や化粧品などへの展開が期待されています。

また、北大東村行政区域にありつつ、民間会社所有となっている沖大東島は、米軍の射爆場として使用されており、島への上陸はもちろんのこと周辺の海域・空域も制限されている状況にあります。

こうした資源を可能な限り活用し、新たな産業づくりや地域おこしを進めていきます。

▼インガンダルマ



▼ギンネム

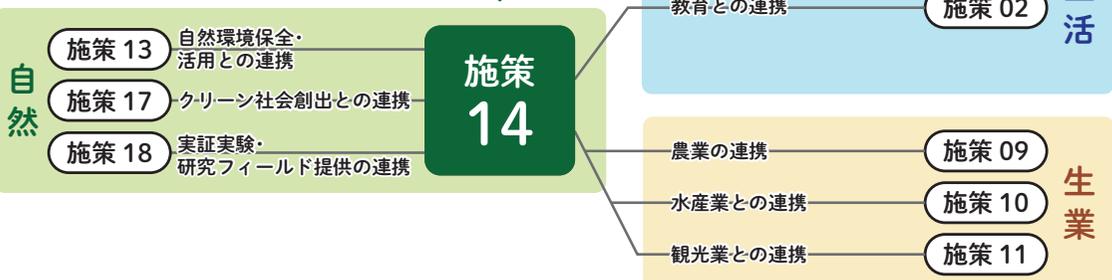


▼沖大東島に調査団が上陸する様子(1989年)



関連施策

未開拓資源活用



施策の展開

未開拓資源の活用

経済

水産

養殖

観光

- 地下浸透海水は、取水および成分分析、活用可能性調査等を適宜実施し、北大東島の新たな産業づくり、地域おこしにつなげます。
- ギンネムを含む雑木、駆除した外来種なども地域資源と捉え、有効活用の可能性を検討します。
- 村内企業や様々な研究機関と連携し、未開拓資源の活用、商品開発に関する調査・検討を推進します。

沖大東島および周辺水産資源調査

経済

水産

養殖

観光

- 現在、米軍の射爆場となっている沖大東島の実態調査を関係機関に働きかけ、長期的な視点で、沖大東島の活用の可能性を検討します。
- 沖大東島周辺の海域は良好な漁場とされており、今後の漁場拡大に向けた可能性調査を関係機関に働きかけます。
- 沖大東島の活用の可能性検討にあたり、所有者である民間会社との交渉を続けます。

目標値

地下浸透海水を
使用した商品開発数[※]

基準値 (R4)

0品



目標値

5品

外来種を活用した
商品開発数[※]

基準値 (R4)

0品



目標値

5品

※累計数

施策 15

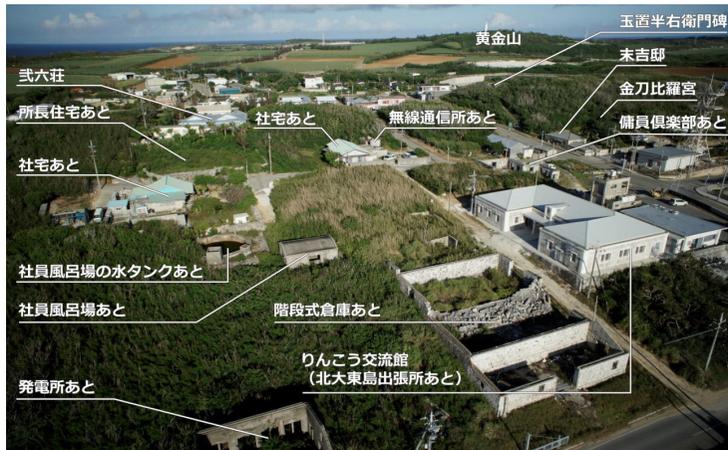
自然と共に生きる環境循環型の北大東島

文化・歴史資源を活かした地域づくり

1903年（明治36年）に開拓された北大東島は、燐鉱石採掘産業の島として栄え、八丈文化と沖縄文化が融合する独特な文化が息づく地域です。西港や字港集落の一带には、燐鉱石採掘産業に関連する歴史資源が多く残っています。燐鉱石生産の一連のシステムを示す「北大東島燐鉱山遺跡」は国指定史跡、字港一带は「北大東島の燐鉱山に由来する文化的景観」として国選定重要文化的景観となっています。

史跡指定や重要文化的景観選定を契機に、北大東島を特徴づける文化・歴史資源を活かした地域づくりの機運が高まっています。

▼重要文化的景観の構成要素



▼燐鉱石貯蔵庫跡



▼りんこう交流館



関連施策

文化・歴史資源活用

自然

施策13 自然環境保全・活用との連携

施策16 景観形成との連携

施策
15

教育との連携

施策02

地域交流・
地域拠点整備との連携

施策04

生活基盤整備との連携

施策06

生活

観光業との連携

施策11

生業

施策の展開

歴史・文化資源の保存・活用整備の推進

教育 建設

- 国指定史跡「北大東島燐鉱山遺跡」および国選定重要文化的景観「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」の保存・活用整備を推進し、燐鉱山全体の本質的価値の顕在化を目指します。
- 字港集落内の歴史的建造物については、積極的な活用整備を推進しつつ、りんこう交流館を中心とした組積遺構が集積する範囲を「文化的景観拠点エリア」として、先行的な活用整備を実施します。
- 上陸公園や3つの神社、試錐碑など島の歴史と文化を特徴づける施設や場所については、積極的な文化財指定および保存・活用方策を検討します。

北大東島の芸能文化の継承

教育 学校 奉賛

- 大東太鼓や沖縄角力・江戸相撲など北大東に息づく、八丈島と沖縄の融合文化を将来にわたり継承していくため、学校教育や生涯学習、地域活動で積極的に活用します。
- 北大東島は沖縄角力が盛んに行われる地域です。沖縄県各地域と連携し、沖縄角力の無形文化財指定を積極的に推進します。
- 玉置碑や各神社、地蔵さん、獣魂碑など、島の行事催行、コミュニティの拠点となる施設の確実な維持管理、施設の更新・空間整備を推進します。

目標値

遺構を活かした
施設・空間整備の数※

基準値 (R4)

1箇所

目標値

3箇所

※累計数

施策 16

自然と共に生きる環境循環型の北大東島 北大東らしい景観形成の推進

沖縄本島と異なる自然、歴史や文化を有する北大東島は、ここにしかない独特な景観を有しています。島を囲む険峻な海岸岩稜と太平洋、島の地形と生物多様性を特徴づける長幕、サトウキビがゆれる広大な農地、開拓と燐鉱石採掘産業を示す字港の集落、八丈と沖縄の融合文化が見えるコミュニティなど、様々な景観が北大東らしさを構成しています。

ここにしかない景観を活かし育て、「北大東らしさ」を将来に継承していきます。

▼農地景観



▼海岸景観



▼眺望景観



▼集落景観



関連施策

景観形成

自然

施策 13 自然環境保全・活用との連携

施策 15 文化・歴史資源活用との連携

施策 16

地域交流・
地域拠点整備との連携

施策 04

生活

生活基盤整備との連携

施策 06

観光業との連携

施策 11

生業

施策の展開

自然景観の保全

建設

教育

- 北大東島の地形や斜面緑地、水辺からなる自然景観の保全を推進していくとともに、自然環境の保全、生物多様性の確保に努めます。
- 自然の環境や景観を将来にわたり保全していくため、無秩序な開発を抑制し、自然と共存するしまづくりを進めます。

集落・生活空間の景観形成

建設

- 各集落については、落ち着いたある居住空間を創出するとともに、散居型住宅を含め北大東らしさを特徴づける地場産材の使用や意匠形態の配慮を促進します。
- 特に字港集落は、燐鉱山の社宅街に由来する集落景観を有していることから、その景観の維持、良好な景観誘導を積極的に進め、景観づくりに関する支援充実を図ります。
- 公共施設、道路および沿道空間においては、景観づくりのモデルケース又は景観づくりをけん引するよう、北大東らしさを演出します。
- その他、サトウキビが揺れる農村景観、漁業の賑わいが見える港や海業集積エリアについては、自然環境と共存する産業振興、景観保全に努めます。

視点場の整備・活用

建設

- 玉置碑の丘、大東ピラミッド、長幕など良好な眺望景観を楽しめる視点場については、北大東島の地域資源、また観光資源として有効な活用整備を推進します。
- 北大東灯台やファームポンドなど既存の施設については、関係機関と連携し、視点場としての開放および活用を関係機関に働きかけます。

景観形成活動支援

建設

- うふあがり島景観協議会が実施する景観づくりに関する提案、活動を支援します。
- 村民が自主的に実施する緑化や美化活動に対し、積極的な支援を検討します。
- 北大東らしい景観づくりに関するイベント、ワークショップなどを開催します。

目標値

公共施設への
ドロマイト修景整備

基準値

—



目標値

5件以上

うふあがり島
景観協議会活動

基準値

—



目標値

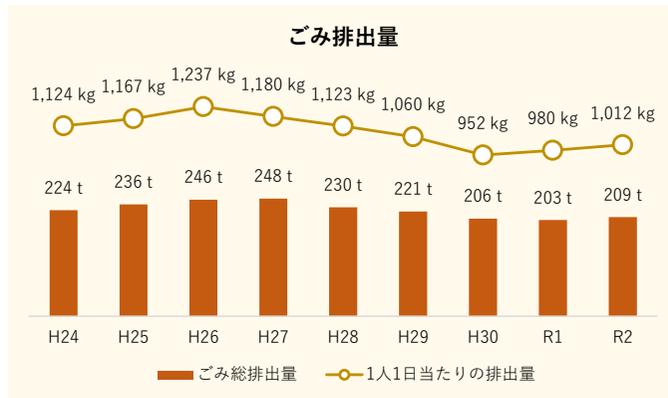
1回/年

施策 17

自然と共に生きる環境循環型の北大東島 クリーンな北大東島の創出

海に囲まれる北大東島においては、島内で発生するごみを可能な限り島内処理を行っていく必要があります。しかし老朽化が進むクリーンセンターにおいては、適切かつ効率的な処理に課題を有することから、早期の施設更新が望まれています。

また、北大東島の自然環境を保全してく観点からも、環境負荷の少ないクリーンエネルギーや低炭素化、廃棄物の適正処理・再生活用が重要なテーマです。



資料：要確認

▼産業廃棄物の島外輸送のようす



▼南大東島の可倒式風力発電



関連施策

クリーン社会創出

自然

- 施策 13 自然環境保全・活用との連携
- 施策 14 未開拓資源活用との連携
- 施策 18 実証実験・研究フィールド提供との連携

施策
17

医療・福祉との連携

施策 05

生活

生活基盤整備の連携

施策 06

農業との連携

施策 09

生業

水産業との連携

施策 10

観光業との連携

施策 11

施策の展開

ゴミ処理施設の機能充実と強化

福祉

- 老朽化が進むクリーンセンターについては、環境負荷にやさしい新たなクリーンセンターへの更新を推進します。
- 回収した資源ごみ（缶・ペットボトル・ビン・古紙など）の適切な処理（島外搬出の効率化）を推進しつつ、島内リサイクルの可能性調査・検討を推進します。
- し尿処理については、適切に処理しながらも、エネルギー（バイオマス）や農業用肥料転換への可能性を検討します。

家庭ごみの削減、持続的な資源の活用

福祉

- 家庭ごみ排出量の軽減に向け、ゴミ処理および資源化に関する普及・啓発を図り、資源の循環化（5R*：Reduce・Reuse・Recycle・Repair・Refuse）を促進します。
- 各家庭へ単独浄化槽から合併浄化槽設置への転換を推進します。
- 長期的な視点で、公共下水道整備の可能性を検討します。

*5R：ゴミを減らすための5つの行動のこと。Reduce（リデュース）＝ごみを発生させない、Reuse（リユース）＝ものを繰り返し使う、Recycle（リサイクル）＝資源として再利用する、Refuse（リフューズ）＝不要なものは受け取らない、Repair（リペア）＝修理して使う、の5つの行動の頭文字が「R」で5R。

北大東島に適した新エネルギーの導入

福祉

- 太陽光、風力などの再生可能エネルギー、水素やバイオマスなどの次世代型エネルギー活用に向け、発電性や経済性など含め、北大東島に適したエネルギーを検討します。
- 脱炭素やカーボンニュートラルな社会を目指し、公共施設の省エネ化、次世代モビリティの導入を推進します。
- 各家庭や事業者に対し、省エネ化について普及・啓発を図ります。

目標値

一人当たりゴミ排出量

基準値 (R2)

1,012g/日

目標値

810g/日

合併浄化槽の
設置普及率

基準値 (R4)

54.6%

目標値

60%

施策 18

自然と共に生きる環境循環型の北大東島 実証実験・研究フィールドの提供

北大東島の貴重な自然環境は、様々な研究者から注目されています。

地形・地質（土壌含む）は島の形成過程を解き明かすカギとして、地下浸透海水は新たな産業づくり、地域おこしとして、資源の解明、活用が期待されています。

また、北大東島では、ICTを活かした効率的な暮らしの実現を目指していることから、積極的な新技術導入を推進、また新技術の実験フィールドとして展開します。

▼土壌研究のようす



▼暴露試験場



▼東北大学所有の北大東島の試錐資料



関連施策

実証実験・ 研究フィールド提供

自然

施策 14 自然環境保全・活用との連携

施策 17 クリーン社会創出との連携

施策 18

生活基盤整備との連携

施策 06

交通・物流との連携

施策 07

生活

農業との連携

施策 09

水産業との連携

施策 10

多様な働き方との連携

施策 12

生業

施策の展開

北大東島に在来する資源の研究

教育 経済

- 北大東島の地形・地質（土壌含む）は、大学・研究機関と連携し、島の形成過程を解明するとともに、その成果に基づいたジオツーリズムの催行、地質遺産（ジオパーク）認定を目指します。
- 農地では、農薬や化学肥料の適正量の研究・分析を推進し、環境にやさしい生産環境づくりと農業振興を実現します。
- 地下浸透海水は、大学や研究機関と連携した成分分析を進め、長期的な研究をとおり、多様な分野での活用を目指します。
- 北大東島の希少な動植物の研究についても、可能な限り連携体制を構築し、その成果を環境保全およびエコツーリズムに展開します。

最新技術を試す実証実験フィールドの提供

経済 総務

- 再生可能エネルギー・水素エネルギー、バイオマスなどの新エネルギー活用・導入に関する実証実験を積極的に実施します。
- ICTやAIを活用したスマートマシン（スマートな産業設備など）、モビリティなどの最新技術の実証実験を北大東島で展開します。
- 北大東島沿岸の海域における波力を活かしたエネルギー展開の可能性を長期的な視点で検討します。

目標値

研究プロジェクトの
実施件数

基準値 (R4)

3件



目標値

8件

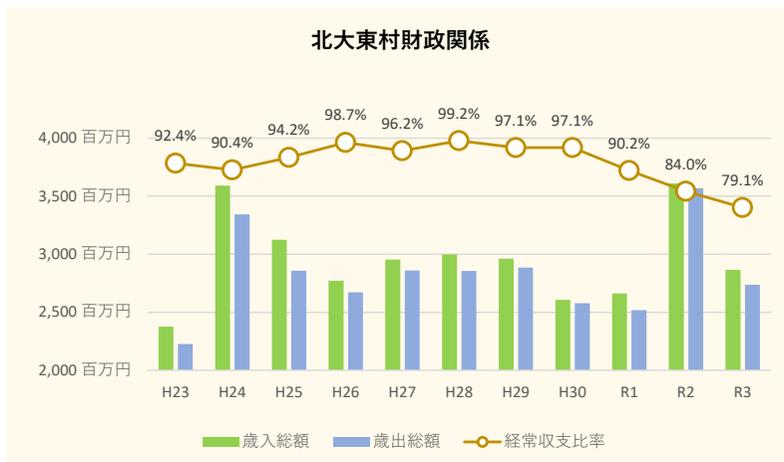
施策 19

地域らしさが鮮やかに彩り持続し続ける北大東島 効率的な行財政運営

島の将来に向け、安定・持続・安心・信頼を繋いでいける行政であるように、社会情勢や潮流にアンテナをはり、自律した行財政運営を続けていく態勢を持ち続けなくてはなりません。

健全な行財政運営においては、必要な自主財源の確保を推進しながら、無駄のない予算執行、効率的な公共施設の運営管理、徹底した情報管理、万が一の備えに取り組んでいきます。また、国が策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、沖縄県の「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」と連動しながら、効果的な補助金の確保および有効活用を検討し、よりよいしまづくりに繋がります。

▼北大東村役場



資料：沖縄県「離島関係資料」

施策の展開

行政サービス・計画の質向上

全課

- 役場職員が北大東島への知識・理解を深め、誇りを持つことや、県外・海外への広い視野でしまづくりを進めていけるよう、学びやステップアップの機会を創出します。
- 各種事業実施や計画検討にあたっては、積極的な情報公開のもと村民の意向を反映できるプロセスを持つことを意識的に進めます。

効率的な行財政運営

全課

- 公共施設に関するファシリティマネジメント計画を策定し、公共施設の適正管理および効率的な運営、計画的な修繕等を推進します。
- 福祉施設運営、住宅供給、観光案内所やミュージアム（民俗資料館）などの公共施設の管理運営に民間活力（PPP/PFI）を活用し、柔軟性の高い利活用を目指します。
- 行政運営のデジタル化を推進し、業務効率の向上および質の高い行政サービスの提供を図ります。
- 北大東村役場の情報セキュリティの強化、資産保護（不正回避）に向け、リスクマネジメントを徹底するとともに、職員に対する情報セキュリティに関する意識および行政モラルの向上のための教育訓練を実施します。
- 万が一の各種災害・感染症・有事に備えた行政版BCP（事業継続計画）の策定を急ぎます。

目標値

経常収支比率*

基準値 (R1)

90.2%

目標値

70~80%

*経常収支比率：毎年度のある程度一定な収入（地方税、地方交付税など）に対して、毎年度一定に支払う経費（人件費、扶助費、公債費など）が占める割合のこと。比率が低いほど、新たな行政需要に対処しやすくなる。

マイナンバーカード 普及率

基準値 (R4.12末時点)

58.1%

目標値

100%

地域らしさが鮮やかに彩り持続し続ける北大東島 みんなで作る北大東島の未来

持続可能な地域づくりに向けては、行政だけでなく、村民や事業者の協働のしまづくりが不可欠です。特に若い世代の参画を促し、次世代のしまづくりにつなげていくことが重要です。そのためには、参加する楽しみや成果が見える喜び、気負うことなく意見が出せる環境づくりなどの工夫も大切なことです。

北大東が北大東らしくあり続けるために、世代や職業などの垣根を越えて村民みんなで行うしまづくりを推進します。

▼うふあがり会議（若手職員ワーキング）の様子



▼島のママさんWSの様子



▼うふあがり会議で話合った内容をまとめたかわら版

第2回 若手職員WG
うふあがり会議
2020.11.11 wed 15:30 ~ 17:30
参加者 ▶ 13名 (3グループ)

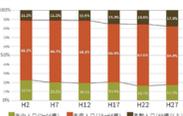
北大東の「こまごま」と「みんな」について語りましょ!!

We're うふあがり会議

これまでの10年間…

10年前あんなに活気があった! 10年間で変わってきたよ!!

- 島の人**
- ・10年前は20代30代の若者が少なかった
 - ・役職員も若い人は少なかった
 - ・10年に比べて人口は増えた
 - ・子どもが増えた
 - ・島出身のUターン者が増えた
 - ・5年前からUターン者も増えてきた
 - ・Uターンが増えたけど定住率はまだ低い



- 島の暮らし**
- 生活**
- ・飛行機が大きくなった
 - ・低空運賃が安くなってきた (島民割あり)
 - ・観光コスト事業がなくなり物価が上昇
 - ・ネット環境の充実
 - ・行事が多くなり質が低下している?
 - ・年未の風物詩であった「うふあがりの燈」がなくなった
- 子育て**
- ・本島の離島進学支援が充実 (補助金・群居塾)
 - ・預かり保育開始、こども園の整備
 - ・北大東 (オンライン版+塾) の導入
 - ・未だ子どもの習い事は少ない
 - ・公園が少なくなり、村民プールがなくなった
- 観光**
- ・以前は、ビアガーデン、かき水屋、パン屋があった
 - ・村民の賃貸住宅が増えた
 - ・食堂がなくなった、Barが出来た

- 島の産業**
- 農業**
- ・畑かん、ファームポンドの整備が進んだ
 - ・5年前よりサトウキビが豊作になった
 - ・スナドリ製氷機の導入
 - ・冬は魚がなかった
- 水産業**
- ・漁船をトレーニング上げていたが、漁港ができた
 - ・水産加工施設ができた
 - ・漁船の大型化で水揚げ高が上がった
 - ・漁師が増えた
 - ・養殖施設が出来た
- 観光業**
- ・観光業内人がいなかった
 - ・観光業者の意識が変わった
 - ・ツアーや島あつちなどで観光客が増えた
 - ・文化財保護が進んできた
 - ・一括交付金の活用
 - ・お土産品が少なかったが特産品が増えてきた
 - ・文化財保護が進んできた
 - ・産業を支える人材や各事業所の人手不足
 - ・機械化が進んできた
 - ・工場が少なくなってきた

これからの10年間

もっと元気に暮らしたい!!

- 島の人**
- ・人口600人をキープ
 - ・人口増のための住宅建設
 - ・子どもが増えてやすい環境づくりとPR
 - ・子どもが増える
 - ・Uターン者の増加
 - ・Uターン促進のための島の魅力発信
 - ・オンラインの普及により島に居ながら仕事が出来るように、人口増加につなげる
 - ・自衛隊誘致



- 島の暮らし**
- 生活**
- ・住宅を増やす
 - ・住宅の良質化 (付帯住宅を民間へ委託する)
 - ・戸建て住宅がたくさん建つ
 - ・低空運賃の更なる負担軽減
 - ・船の増便
 - ・南大東への行き来の良さ
 - ・無人タクシー導入
 - ・JAで刺身が買える、マグロ・サワラ以外の魚を食べたい
 - ・総菜屋さんやパン屋さんがほしい
 - ・村民から求められる店舗の誘致
 - ・移動販売
 - ・ネット環境の高速化
 - ・銀行ATMの利用日増、利用時間延長
- 医療**
- ・高齢者が最末期を選ばれる環境づくり
 - ・様々な医療が受けられるようになる
 - ・耳鼻科、整形外科
- 施設**
- ・公園や憩いの場の整備
 - ・観光を含めた娯楽施設の整備
 - ・子ども遊のための娯楽施設増加

- 島の産業**
- 農業**
- ・農業の多様化
 - ・水耕栽培の開始
 - ・野菜の安定供給
 - ・月形石鉄工場設立
 - ・サトウキビ以外の農業のスマート化
- 水産業**
- ・工場増
 - ・水産物の発展
 - ・島民もアツビ、ヒラメが気軽に買える
- 観光業**
- ・宿泊施設の充実
 - ・飲食業が増える
 - ・キャンプ場、BBQエリア
- その他**
- ・もうかる農業、もうかる漁業、もうかる観光業
 - ・自営業しやすい環境づくり (村が場所を貸す)
 - ・雇用増

「ああ、そうだったね～」と懐かしみながら振り返り、「こうなるといいね!」と今後の島について様々な意見が次々と…。少しづつ未来の施策のタネが見えてきました!

施策の展開

官民連携のしまづくりの推進

総務

- 各種活動団体、各産業、役場など多様な主体で組織する（仮称）しまづくり連絡協議会の組織化を推進し、関係各所の課題や方向性、しまづくりに関する意見交換を実施します。
- 次世代のしまづくりに向けては、若い世代の参画を促進するとともに、連絡協議会青年部の組織を検討します。

役場内の総合計画推進体制の構築

総務

- 総合計画の実施計画を策定し、3年毎に取り組む具体事業計画を定めます。
- 年に数回、定期的に総合計画推進会議を実施し、総合計画の進捗や各課連携状況を確認します。
- “うふあがり会議”（若手役場職員ワーキング）にて勉強や情報交換により持続可能なしまづくりにつながる取り組みを継続的に実施します。

目標値

しまづくり
ワークショップの開催

基準値

—



目標値

3回以上/年

官民連携事業
(PPP/PFI) の検討

基準値

—



目標値

1件以上

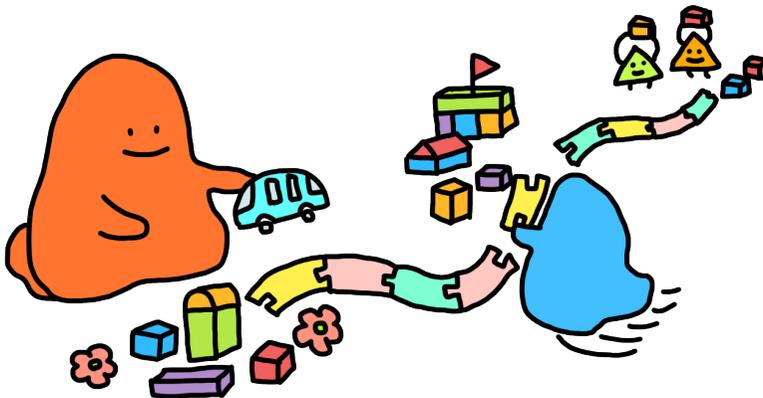
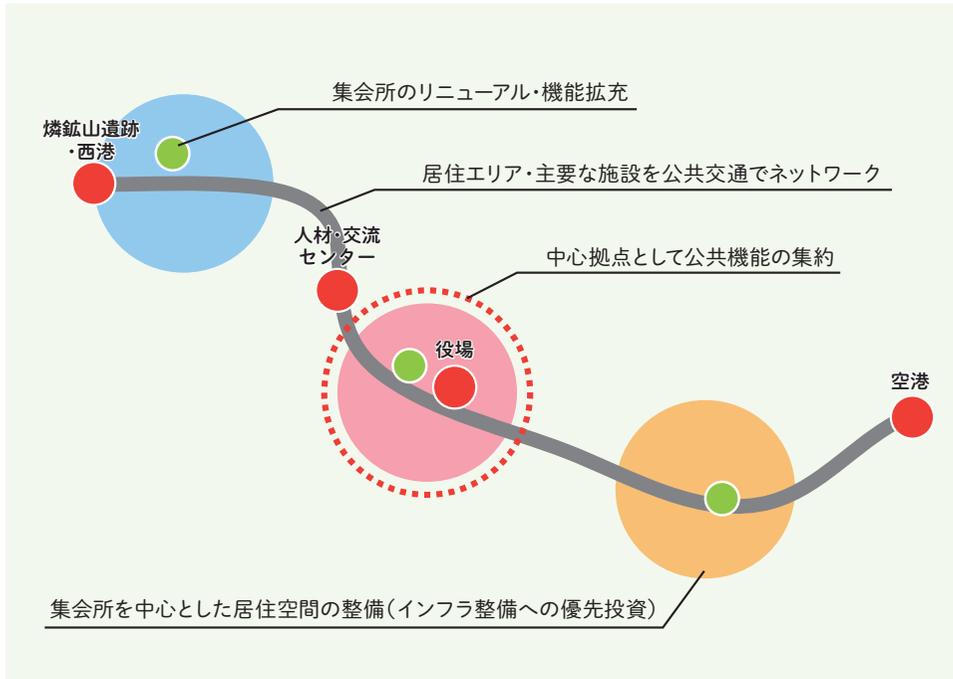
施策 21

地域らしさが鮮やかに彩り持続し続ける北大東島 コンパクトな生活空間づくり

かつての燐鉱採掘産業に由来する社宅は、道路や居住空間、燐鉱石生産施設など計画的な配置と土地利用が行われてきました。また、農村地域の特徴である農地に隣接して住宅が建てられるなど、北大東らしい土地利用も現在に残っています。

次世代のしまづくりでは、北大東らしさを残しつつ、効率的に暮らしていける土地利用を検討し、無駄の少ない居住、移動、就業、公共施設の管理の実現を目指します。

▼北大東村におけるコンパクト プラス ネットワークのイメージ図



施策の展開

計画的な土地利用の推進

建設

- 居住空間については、3つの字集会所を中心とした居住ゾーンとして集約および機能拡大を推進します。
- 島の基幹産業を支える農地は、農業生産基盤整備の早期完了を目指すとともに、農業振興につながる新技術の導入を可能とする農地利用を図ります。
- 海業に関連する土地利用および施設整備は、西港付近への集約を推進します。
- 島の輪郭を形成する海岸岩稜や長幕は、北大東島の貴重な財産として、自然的土地利用の保全に努めます。
- 秩序のある土地開発が実行されるよう、また、住宅地や産業用地、農地等が適切に配置されるよう「北大東村国土利用計画」の策定を検討します。

コンパクトなしまづくり

建設

- 各字の居住空間の集約・宅地整備（施策6関係）を推進しつつ、公共および交流サービスの充実、居住誘導を図ります。
- 島の中心部に位置する字中野は行政、医療・福祉、教育など生活支援機能が集積する土地利用を推進します。
- 字港は、歴史的背景や特徴ある集落形態を活かした居住誘導を推進します。
- 字南は、集会所を軸とした宅地の整理、居住空間の整備を検討します。
- 3つの集落と主要な公共施設を公共交通でネットワークさせ、コンパクトに暮らせるしまづくりを推進します。

目標値

地域間公共交通の
実証実験の実施[※]

基準値

—

目標値

1件

※累計数

施策 22

地域らしさが鮮やかに彩り持続し続ける北大東島 積極的なニューインフラ導入と準備

効率的な暮らしや産業活動を実現するため、情報インフラの整備・充実は重要な位置づけにあります。2022年には沖縄本島と北大東島を結ぶ海底光ケーブルが開通しており、北大東島と南大東島間の敷設が完了すれば、さらなる通信の安定化が期待されます。情報インフラを有効に活用し、教育や医療、福祉の分野にICT設備を導入するなど、離島特有の課題解決や多様な暮らしの実現を目指します。

▼海底光ケーブル敷設船



▼なかよし塾にて双方向遠隔授業



▼光ケーブル断面模型



施策の展開

情報通信インフラの整備・充実

総務

- 情報通信インフラ（光回線）の島内充実を実現させ、暮らしや生業の質の向上を図ります。
- 大手携帯電話（キャリア）事業者へ超高速通信・無遅延に対応する基地局の整備を働きかけます。

スマートな暮らし・産業の実現

総務

- 遠隔離島においても安心して充実した暮らしを実現させるため、特に学校教育や医療・福祉の分野においては、情報通信およびICT環境の強化を推進します。
- スマートな産業への対応、先進的な就業を実現するため、ICTの利活用を推進します。
- 情報通信やICTの利活用にむけては、施設整備や機能強化を推進しながら、最新のテクノロジーをオペレーションする人材の確保・育成を図ります。
- 島内移動や公共交通に新エネルギーを活用したモビリティの導入を検討します。
- 北大東島は、地震および津波による被害想定がないことから、データセンターとしての適地調査および関連企業に対しサウディング調査を検討します。

目標値

第5世代
移動通信システムの
島内カバー率

基準値

0%



目標値

100%

施策 23

地域らしさが鮮やかに彩り持続し続ける北大東島

ちよーで一島が連携する大東地域の活性化

南大東島と北大東島は最短距離にして8kmしか離れていません。両島は、南北親善競技大会、各島の祭りやイベントによる交流を通じて、また、共通して開拓の歴史を持つ兄弟島として絆を深めてきました。

南北大東島の観光や水産業、教育など様々な分野で交流および協働によるプロジェクトを実施することで、互いの魅力を高めあい、“南北大東島”として更なるステージの開拓に挑んでいける関係構築を目指します。

▼南北大東合同交流会



▼南北親善競技大会



▼観光連携 (おじやりにやれプロジェクト)

ちよーで一じま
八丈島×沖縄から生まれた兄弟島



施策の展開

南北大東島をつなぐ海上交通、物流体制の整備

経済

総務

JA

水産

- 南北大東間の海上交通を整備し、両村民の交流機会の拡大を図ります。
- お互いの島で生産された野菜や鮮魚、加工品等の物流体制を構築し、食糧生産を支えあう地域づくりを目指します。
- 両島のJAや水産事業者が連携し、効率的な輸出体制や販路開拓を目指します。

南北大東島連携プロジェクトの推進

総務

- 両島に共通する特異な地質、歴史文化資源を活かし、ジオパークや指定文化財への対応を検討します。
- 南北大東島観光ツアーのパッケージ化や南北大東両村による地域連携DMO*の設立等により、南北大東島の観光振興を促進します。

*DMO：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実現するための調整機能を備えた法人のこと。（出典：北大東村観光振興基本計画）

目標値

南北大東航路の
年間運行回数（往復）

基準値

—



目標値

100回

連携プロジェクトの
立ち上げ

基準値

—



目標値

2件

施策 24

地域らしさが鮮やかに彩り持続し続ける北大東島 北大東ネットワークの活用・拡大

北大東島は開拓以来、様々な人材や技術の交流により発展してきました。

北大東で暮らす人々は、1人が様々な役割をこなすスーパーマンですが、島内で解決できない課題については、島外の専門技術者の技術やノウハウを上手に活用するなど、多様な人材や技術の交流およびネットワークの構築によってしまづくりを進めています。

北大東ネットワークを広げ多様な人々との交流をとおり、よりよい北大東島の発展に繋がります。

▼うぶあがり人と自然のミュージアムにてリニューアルに関わった専門家のトークイベント



▼北大東村郷友会



▼専門家との意見交換(りんこうゆんたく会)



施策の展開

北大東ファンネットワークの活用

総務

- 北大東村郷友会のネットワークの活用し、北大東島への注目度向上を目指します。
- 県内外問わず、北大東島のファンに対する継続的な情報やサービスの提供、イベント実施により、北大東ファンのネットワークを拡大します。
- 島の出身者、居住経験者、北大東のファンを積極的に集い、出合いやUJターンを推進します。
- ふるさと納税や企業版ふるさと納税の積極的な活用を推進し、しまづくり財源の確保に繋がります。
- HP、パンフレット、村勢要覧などの積極的な情報媒体の整備・制作を推進します。

専門家ネットワークの活用

総務

- 北大東島に関与する多様な分野の専門家との相互の交流・連携等により、専門家ネットワークの拡大・一層の活用を図ります。
- 島内に足りない専門技術およびノウハウは、積極的に島外の技術者を活用します。

交流機会の創出

教育

総務

- スポーツ施設や交流センターなど既存の施設や、研究やスポーツや音楽合宿にも対応できる施設整備の充実を図り、島内での人材交流や技術交流の機会の創出を図ります。
- 中長期滞在施設の整備など、交流から定住に繋がる仕組みを検討します。

目標値

北大東村郷友会の
会員総数

基準値 (R3)

514人

目標値

600人

ふるさと応援寄付金の
寄付額[※]

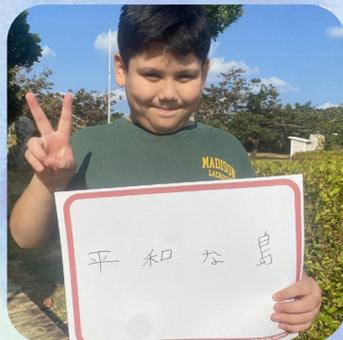
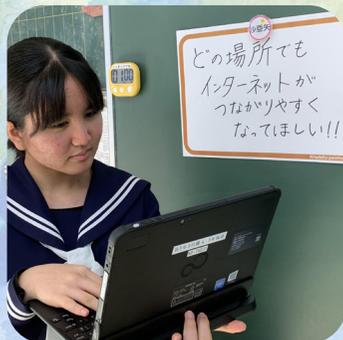
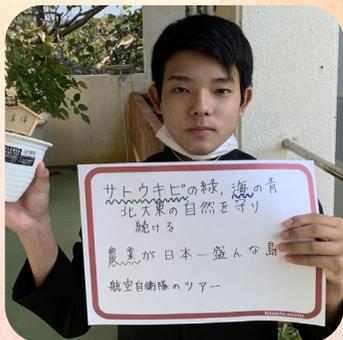
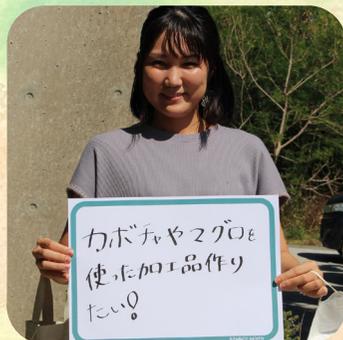
基準値 (R3)

28.1百万円

目標値

33.7百万円

※累計額



4. 計画推進に向けて

(1) 北大東らしさを「繋げる」

この総合計画は、北大東が北大東らしくあり、持続的に発展し続けるための指針です。

今後、この総合計画を行政、事業者、各種団体、そして村民のみなさん共通のものとして認識を深め、それぞれの力を持ち寄り、それぞれの色を発揮しながら目指す未来を描いていかなければなりません。それぞれの力は限られていても、少しずつ出来ることをすること、思いやること、支えあうことで道は拓けるということ、すでに私たちは知っています。

産学官民協働のもと様々なシーンでこの総合計画が活用され“北大東らしさ”が繋がっていくことを願います。

(2) 北大東島の未来を「伝える」

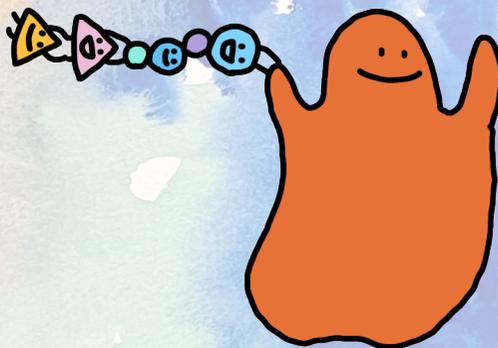
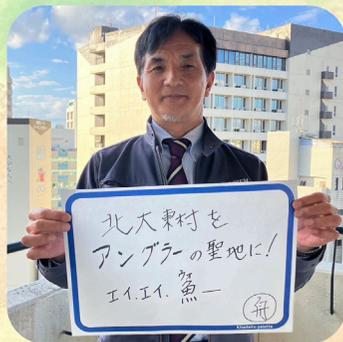
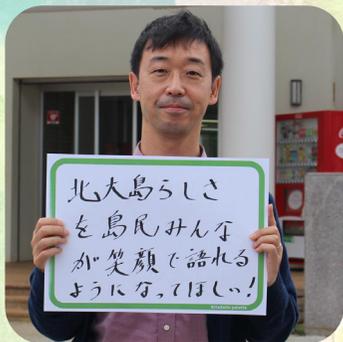
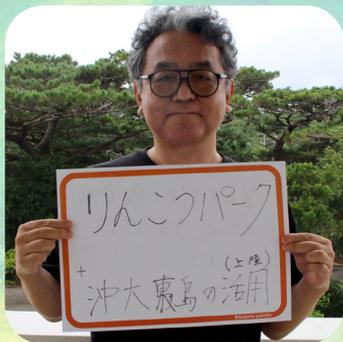
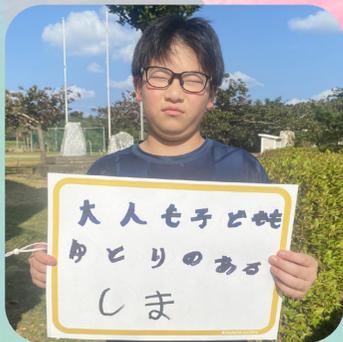
北大東島の未来は、北大東島で暮らすみんなで創りだすものです。普段の何気ない暮らしの中で、島の未来を語りあい、目指すべき未来を伝え合うことで、村民の想いがつまった北大東らしいしまづくりを目指していきます。

(3) 北大東村総合計画を「確認する」

総合計画は10年間の行政運営に関する重要な最上位計画に位置づけられます。

この総合計画に示された基本施策が、しっかりと実行され、“北大東らしいしまづくり”が進められていることを検証するため、【(仮称)北大東村総合計画推進会議】を組織し、1年に1回、計画の進捗状況や効果を確認します。





III . 卷末資料

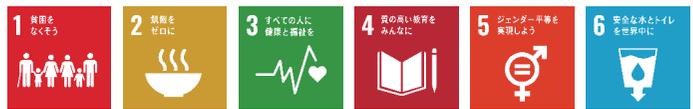


1. 持続可能なしまづくり (SDGs との関係)

SDGsで設定されている17の目標は、人間 (People)、豊かさ (Prosperity)、地球 (Planet)、平和 (Peace) パートナーシップ (Partnership) のキーワードに分類することができます。

前期基本計画で掲げる24の施策は、下図の関係で5つのキーワードに紐づいており、持続可能なしまづくりを目指すものとなっています。

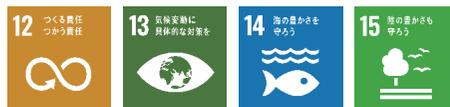
人間 (People) すべての人の人権が尊重され、尊厳をもち、平等に、潜在能力を発揮できるようにし、貧困と飢餓を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、すべての人に教育、水と衛生、健康的な生活を保障します。



豊かさ (Prosperity) すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにし、自然と調和する経済、社会、技術の進展を確保します。



地球 (Planet) 責任ある消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などをおして、地球を破壊から守ります。



平和 (Peace) 平和、公正で、恐怖と暴力のない、インクルーシブな(すべての人が受け入れられ参加できる)世界を目指します。



パートナーシップ (Partnership) 政府、民間セクター、市民社会、国連機関を含む多様な関係者が参加する、グローバルなパートナーシップにより実現を目指します。



人間 (People)

出産・子育て

施策
01

教育

施策
02

医療・福祉

施策
05

農業

施策
09

水産業

施策
10

多様な働き方

施策
12

豊かさ (Prosperity)

行事・娯楽

施策
03

地域交流・
地域拠点整備

施策
04

生活基盤整備

施策
06

交通・物流

施策
07

防災・防犯

施策
08

農業

施策
09

水産業

施策
10

観光業

施策
11

多様な働き方

施策
12

文化・
歴史資源活用

施策
15

景観形成

施策
16

クリーン
社会創出

施策
17

コンパクトな
生活空間

施策
21

ニューインフラ

施策
22

地球 (Planet)

防災・防犯

施策
08

農業

施策
09

水産業

施策
10

観光業

施策
11

自然環境
保全・活用

施策
13

未開拓資源活用

施策
14

景観形成

施策
16

クリーン
社会創出

施策
17

実証実験・研究
フィールド提供

施策
18

平和 (Peace)

防災・防犯

施策
08

行財政運営

施策
19

産学官民協働

施策
20

ニューインフラ

施策
22

パートナーシップ (Partnership)

多様な働き方

施策
12

実証実験・研究
フィールド提供

施策
18

産学官民協働

施策
20

南北連携

施策
23

北大東
ネットワーク

施策
24

2. 計画検討プロセス

実施日		内容	備考
2020年 (R2)	9月24日	第1回若手職員 WG	講義：総合計画と総合戦略の役割
	9月～10月	アンケート調査	村内全世帯 / 中学生 / 島外在住者
	11月11日	第2回若手職員 WG	講義：北大東村の経済・産業・人口
		関係団体ヒアリング①	水産業 / 建設業
	11月12日	関係団体ヒアリング②	農業 / 観光業
	11月	第1回評価委員会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催
	12月22日	関係団体ヒアリング③	製糖業
2021年 (R3)	3月18日	関係団体ヒアリング④	宿泊業
	8月12日	有識者ヒアリング	観光分野 / ICT 分野
	10月7日	第2回評価委員会	
	10月～12月	第3回若手職員 WG	講義：北大東島の文化的景観
2022年 (R4)	2月21日	第4回若手職員 WG	講義：北大東島の光（観光）
	2月22日	第1回策定委員会	
	7月11日	第1回庁内委員会	
		第5回若手職員 WG	講義：地域らしさの捉え方・活かし方
	7月12日	第2回策定委員会	
	10月3日	第6回若手職員 WG	講義：北大東 SDGs
	10月28日	第1回住民 WS	青年会
	10月29日	第2回住民 WS	島外出身子育て世帯
	12月2日	第2回庁内委員会	
	12月3日	第3回策定委員会	
2023年 (R5)	2月～3月	パブリックコメント	役場 / 空港 / りんこう交流 / WEB にて
	3月8日	第3回庁内委員会	
	3月9日	第4回策定委員会	

3. 計画体制

(1) 評価委員会名簿

	氏名	所属	分野
委員長	服部 敦	中部大学教授 / 北大東政策参与	学識 (まちづくり)
副委員長	鬼塚 三典	北大東村副村長	行政
委員	上間 正巳	北大東村議長	議会
	浅沼 義功	(株) 与儀組 代表取締役社長	産業
	金城 武俊	北大東製糖 (株) 所長	産業
	知花 実	北大東村水産組合 組合長	産業
	奥山 貞枝 (第1回)	JA おきなわ北大東支店 支店長	金融
	仲田 裕明 (第2回)		
	當間 リエ子	(株) フロンティアプラネット	観光
	葉棚 清朗	北大東島振興機構 事務局長	観光
	親川 茂治	(株) 黄金山 代表取締役社長	観光
	内嶺 正人	北大東村社会福祉協議会	福祉
	浅沼 忠夫	南区代表 区長	地元代表
	田港 恒一	中野区代表 区長	地元代表
	知花 ゆかり	港区代表 区長	地元代表

(2) 策定委員会名簿

	氏名	所属	分野
委員長	服部 敦	中部大学教授 / 北大東政策参与	学識 (まちづくり)
副委員長	鬼塚 三典	北大東村副村長	行政
委員	上杉 和央	京都府立大学准教授	学識 (文化的景観)
	上間 正巳(第1・2回)	北大東村議長	議会
	奥山 久夫(第3・4回)		
	浅沼 義功	(株) 与儀組 代表取締役社長	産業
	金城 武俊	北大東製糖(株) 所長	産業
	知花 実	北大東村水産組合 組合長	産業
	仲田 裕明(第1・2回)	JA おきなわ北大東支店 支店長	金融
	喜屋武 隆(第3・4回)		
	當間 リエ子	北大東島振興機構	観光
	葉棚 清朗	北大東島振興機構 事務局長	観光
	親川 茂治(第1回)	(株) 黄金山 代表取締役社長	観光
	沖山 靖(第2回以降)		
	内嶺 正人	北大東村社会福祉協議会	福祉
	浅沼 忠夫(第1回)	南区代表 区長	地元代表
	仲里 航(第2回以降)		
	田港 恒一	中野区代表 区長	地元代表
知花 ゆかり	港区代表 区長	地元代表	

北大東村総合計画

基本構想・前期基本計画

第2次北大東村しま・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略

北大東村総務課

〒901-3992 沖縄県島尻郡北大東村字中野 218 番地

電話 09802-3-4001

FAX 09802-3-4406



北大東村